

基本計画書

基本計画書									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の専攻の設置								
フリガナ設置者	コリウダガクノカクシン エヒメダク 国立大学法人 愛媛大学								
フリガナ大学の名称	エヒメダクガクノカクシン 愛媛大学大学院(Graduate School of Ehime University)								
大学本部の位置	愛媛県松山市道後樋又10番13号								
大学の目的	愛媛大学は、学術の一中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって文化の創造と発展に貢献することを目的とする。								
新設学部等の目的	学校教育法、愛媛大学大学院学則及び愛媛大学憲章を踏まえ、学校教育と社会教育に関する学術の理論及び応用を教授・研究し、高度な実践的能力を育成する学校教育教員の養成を行うとともに、現職教員の深い学識及び卓越した能力を培い、成長過程に即した研修・研鑽を支援し、学校教育及び広く社会の教育・文化の発展に貢献することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部等】 教育学部 一部14条特例の実施 教職大学院
	計	年	人	年次人	人	教職修士 (専門職) 【Master of Education】	令和2年4月 第1年次	愛媛県松山市文京町3番	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>法文学研究科</p> <p>総合法政策専攻(廃止) (△15) ※令和2年4月学生募集停止</p> <p>人文学専攻(廃止) (△10) ※令和2年4月学生募集停止</p> <p>人文社会科学研究科</p> <p>法文学専攻 (12) (平成31年4月事前伺い)</p> <p>産業システム創成専攻 (8) (平成31年4月事前伺い)</p> <p>教育学研究科</p> <p>教育実践高度化専攻 (40) (平成31年4月事前伺い)</p> <p>心理発達臨床専攻 (10) (平成31年4月事前伺い)</p> <p>教育実践高度化専攻(廃止) (△15) ※令和2年4月学生募集停止</p> <p>教科教育専攻(廃止) (△20) ※令和2年4月学生募集停止</p> <p>特別支援教育専攻(廃止) (△11) ※令和2年4月学生募集停止</p> <p>学校臨床心理専攻(廃止) (△9) ※令和2年4月学生募集停止</p> <p>教育学部</p> <p>学校教育教員養成課程[定員増] (20) (令和2年4月)</p> <p>特別支援教育教員養成課程(廃止) (△20) ※令和2年4月学生募集停止</p> <p>医学系研究科</p> <p>看護学専攻博士後期課程 (2) (平成31年3月意見伺い)</p> <p>令和2年4月名称変更予定</p> <p>医学系研究科</p> <p>看護学専攻修士課程→看護学専攻博士前期課程[定員減] (△4) (令和2年4月)</p>								

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	教育学研究科 教育実践高度化専攻	18科目	109科目	9科目	136科目	46単位			
教員	学部等の名称	専任教員等					兼任 教員等		
		教授	准教授	講師	助教	計			
新設	医学系研究科 看護学専攻（博士後期課程）	10 (10)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	8 (8)	平成31年3月 意見伺い
	人文社会科学研究科 法文学専攻（修士課程）	29 (29)	25 (25)	0 (0)	0 (0)	54 (54)	0 (0)	8 (8)	
設	人文社会科学研究科 産業システム創成専攻（修士課程）	15 (15)	17 (17)	2 (2)	2 (2)	36 (36)	0 (0)	16 (16)	平成31年4月 事前伺い
	教育学研究科 心理発達臨床専攻（修士課程）	2 (2)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	12 (12)	平成31年4月 事前伺い
分	教育学研究科 教育実践高度化専攻（専門職学位課程）	21 (21)	15 (15)	2 (2)	0 (0)	38 (38)	0 (0)	46 (46)	
	計	77 (77)	64 (64)	5 (5)	2 (2)	148 (148)	0 (0)	- (-)	
組	医学系研究科 医学専攻（博士課程）	48 (48)	59 (59)	33 (33)	0 (0)	140 (140)	0 (0)	3 (3)	令和2年4月 名称変更（予定）
	医学系研究科 看護学専攻（博士前期課程）	10 (11)	2 (2)	3 (3)	1 (1)	15 (16)	0 (0)	36 (36)	
織	理工学研究科 生産環境工学専攻（博士前期課程）	17 (17)	18 (18)	3 (3)	4 (4)	42 (42)	0 (0)	9 (9)	
	理工学研究科 物質生命工学専攻（博士前期課程）	17 (17)	11 (11)	2 (2)	8 (8)	38 (38)	0 (0)	5 (5)	
の	理工学研究科 電子情報工学専攻（博士前期課程）	13 (13)	14 (14)	2 (2)	6 (6)	35 (35)	0 (0)	11 (11)	
	理工学研究科 数理物質科学専攻（博士前期課程）	23 (23)	20 (20)	0 (0)	11 (11)	54 (54)	0 (0)	8 (8)	
設	理工学研究科 環境機能科学専攻（博士前期課程）	15 (15)	15 (15)	0 (0)	6 (6)	36 (36)	0 (0)	3 (3)	
	理工学研究科 生産環境工学専攻（博士後期課程）	17 (17)	18 (18)	0 (0)	0 (0)	35 (35)	0 (0)	0 (0)	
概	理工学研究科 物質生命工学専攻（博士後期課程）	17 (17)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	0 (0)	
	理工学研究科 電子情報工学専攻（博士後期課程）	13 (13)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	0 (0)	
要	理工学研究科 数理物質科学専攻（博士後期課程）	22 (22)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	36 (36)	0 (0)	0 (0)	
	理工学研究科 環境機能科学専攻（博士後期課程）	15 (15)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	29 (29)	0 (0)	0 (0)	
分	農学研究科 食料生産学専攻（修士課程）	18 (18)	13 (13)	2 (2)	7 (7)	40 (40)	0 (0)	13 (13)	
	農学研究科 生命機能学専攻（修士課程）	6 (6)	8 (8)	0 (0)	4 (4)	18 (18)	0 (0)	20 (20)	
要	農学研究科 生物環境学専攻（修士課程）	17 (17)	16 (16)	0 (0)	2 (2)	35 (35)	0 (0)	32 (32)	
	連合農学研究科 生物資源生産学専攻（博士課程）	40 (40)	29 (29)	1 (1)	3 (3)	73 (73)	0 (0)	1 (1)	
分	連合農学研究科 生物資源利用学専攻（博士課程）	35 (35)	26 (26)	2 (2)	6 (6)	69 (69)	0 (0)	1 (1)	
	連合農学研究科 生物環境保全学専攻（博士課程）	25 (25)	19 (19)	0 (0)	2 (2)	46 (46)	0 (0)	4 (4)	
	計	368 (369)	320 (320)	48 (48)	60 (60)	795 (796)	0 (0)	- (-)	
	合計	445 (446)	384 (384)	53 (53)	62 (62)	943 (944)	0 (0)	- (-)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体				
	事 務 職 員		320 人 (320)	437 人 (423)	757 人 (743)					
	技 術 職 員		514 (514)	140 (130)	654 (644)					
	図 書 館 専 門 職 員		18 (18)	0 (0)	18 (18)					
	そ の 他 の 職 員		1 (1)	475 (475)	476 (476)					
	計		853 (853)	1,052 (1,028)	1,905 (1,881)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体				
	校 舎 敷 地	316,958 m ²	0 m ²	0 m ²	316,958 m ²					
	運 動 場 用 地	79,745 m ²	0 m ²	0 m ²	79,745 m ²					
	小 計	396,703 m ²	0 m ²	0 m ²	396,703 m ²					
	そ の 他	4,257,546 m ²	0 m ²	0 m ²	4,257,546 m ²					
	合 計	4,654,249 m ²	0 m ²	0 m ²	4,654,249 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体				
		220,067 m ² (220,067 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	220,067 m ² (220,067 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	117 室	105 室	588 室	18 室 (補助職員 0人)	8 室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		教育学研究科 教育実践高度化専攻		38 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定不能なため、大学全体の数		
	教育学研究科	1,133,725 [326,560] (1,133,725 [326,560])	23,326 [7,552] (23,326 [7,552])	3,631 [2,155] (3,631 [2,155])	6,796 (6,796)	11,452 (11,452)	1 (1)			
	計	1,133,725 [326,560] (1,133,725 [326,560])	23,326 [7,552] (23,326 [7,552])	3,631 [2,155] (3,631 [2,155])	6,796 (6,796)	11,452 (11,452)	1 (1)			
図 書 館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		10,615 m ²		981	786,305					
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体			
		10,218 m ²		武道場1, 弓道場1, テニスコート22面, 水泳プール4基						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費（運営費交付金）による
		教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—	—	
		共同研究費等		—	—	—	—	—	—	
		図 書 購 入 費		—	—	—	—	—	—	
	設 備 購 入 費		—	—	—	—	—	—		
	学 生 1 人 当 り 納 付 金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		—								

教育課程等の概要															
(教育学研究科教育実践高度化専攻)															
科目区分	科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専攻共通基礎科目	成 関 及 び 実 施 の 編 成 に 関 する 領 域	授業研究の開発実践	1前		2		○			2	1				オムニバス・共同(一部)
		授業開発の理論と実際	1前		2		○			3	1				オムニバス・共同(一部)
	指 導 方 法 に 関 する 領 域	心の教育の理論と実践	1前		2		○			3					共同集中
		授業における学習支援と指導法の事例分析	1前		2		○			1	2				オムニバス・共同(一部)
		ICT教育の実践研究	1前		2		○			2	1	1			オムニバス・共同(一部)
		小学校英語教育の実践研究	1前		2		○			1	1				共同
	育 生 相 談 に 関 する 領 域	子どもの発達と感情	1前		2		○			1					オムニバス・共同(一部)
		生徒指導・進路指導の実践研究	1前		2		○			2	1				共同集中
		子ども理解の心理アプローチ(調査法)	1前		2		○			1	1				オムニバス
		特別支援教育の理論と実践	1前		2		○			1	3				オムニバス
	校 学 級 経 営 に 関 する 領 域	学級経営の理論と実践	1前		2		○			2	1				オムニバス・共同(一部)
		学校組織のリーダーシップ	1前		2		○			1					共同
		データを活用した学校経営(調査法)	1前		2		○			1	1				共同
		子どもの資質・能力を高める学校経営論	1前		2		○			2					兼1 共同
	の 学 校 に 関 する 領 域	教員の成長と職業倫理	1前		2		○			2					共同
		教師のライフヒストリー省察と資質能力開発	1前		2		○			1					兼1 共同
		学校・家庭・地域の連携論	1前		2		○			2					オムニバス・共同(一部)
		愛媛の教育改革	1前		2		○			3					オムニバス・共同(一部)
	小計(18科目)		—	0	36	0	—	—	14	8	1	0	0	兼4	
(リーダーシップ別選択開発コース)	(発展科目)	エビデンスに基づく教育政策・事業分析	1後		2		○			1	1				共同
		人材育成演習	1後		2		○			2					共同
		教員研修プログラム開発演習	1後		2		○				2				共同集中
		カリキュラムマネジメントと校内研修	1後		2		○								兼1 集中
		信頼を構築する学校危機管理	1後		2		○				1				兼1 共同
		地域とともにある学校の経営	1後		2		○				2	2			共同
		学校改善の実践的研究	1後		2		○				1	1			共同集中
		研究(課題)	学校改善課題研究1	1前		2		○			7	2			
	学校改善課題研究2	1後		2		○				7	2				共同
	小計(9科目)		—	0	18	0	—	—	7	2	0	0	0	兼2	
(教育実践開発コース)	(発展科目)	教材開発高度化演習	1後		2		○			5	1				オムニバス・共同(一部)
		特別な教育ニーズへの対応	1後		2		○				2				オムニバス
		学級経営の事例研究	1後		2		○				2				共同
		教育課題解決のための教育プログラム開発演習	1後		2		○				1	1			オムニバス・共同(一部)
		児童生徒・保護者の教育相談実践	1後		2		○					1			兼1 共同
		集団づくりの道徳論的アプローチ	1後		2		○				2				共同
		生徒指導機能を生かした学習指導	1後		2		○				2				共同
		子どもの問題行動の事例研究	1後		2		○				1				兼1 共同集中

(教育実践開発コース)	(発展科目)	生徒指導と特別活動の実践研究	1後	2		○	1	1					共同	
		進路指導の実践研究	1後	2		○	1	1					オムニバス・共同 (一部)	
		デジタル教材開発とその利用方法	1後	2		○		1				兼1	共同	
		ソフトウェアを活用した校務支援	1後	2		○		1				兼1	共同	
		プログラミングを活用した授業実践	1後	2		○		1	1				共同	
		ICTを活用した授業実践開発	1後	2		○		1	1				共同	
	(課題研究)	授業改善課題研究1	1前	2		○	5	5	1				共同	
		授業改善課題研究2	1後	2		○	5	5	1				共同	
		授業改善課題研究3	2通	4		○	5	5	1				共同	
		小計 (17科目)	—	0	36	0	—	10	7	1	0	0	兼2	
コース別選択科目 (教科領域コース)	(発展科目)	教科指導力高度化演習 基礎	1前	2		○	6	4					共同	
		教科指導力高度化演習 発展	1後	2		○	6	4					共同	
		教材研究の基礎理論 (現代の国語)	1前	2		○							兼3	共同
		教材の開発と実践 (現代の国語)	1後	2		○							兼3	共同
		教材研究の基礎理論 (言語文化)	1前	2		○	1						兼2	共同
		教材の開発と実践 (言語文化)	1後	2		○	1						兼2	共同
		教材研究の基礎理論 (書写書道)	1前	2		○							兼1	
		教材の開発と実践 (書写書道)	1後	2		○							兼1	
		教材研究の基礎理論 (歴史)	1前	2		○				1			兼2	オムニバス・共同 (一部)
		教材の開発と実践 (歴史)	1後	2		○				1			兼2	オムニバス・共同 (一部)
		教材研究の基礎理論 (地理)	1前	2		○				1			兼2	オムニバス・共同 (一部)
		教材の開発と実践 (地理)	1後	2		○				1			兼2	オムニバス・共同 (一部)
		教材研究の基礎理論 (公民)	1前	2		○	1						兼3	オムニバス・共同 (一部)
		教材の開発と実践 (公民)	1後	2		○	1						兼3	オムニバス・共同 (一部)
		教材研究の基礎理論 (英語学・言語科学)	1前	2		○							兼2	共同
		教材の開発と実践 (英語学・言語科学)	1後	2		○							兼2	共同
		教材研究の基礎理論 (第二言語習得)	1前	2		○	1						兼1	オムニバス・共同 (一部)
		教材の開発と実践 (第二言語習得)	1後	2		○	1						兼1	オムニバス・共同 (一部)
		教材研究の基礎理論 (代数)	1前	2		○	2							共同
		教材の開発と実践 (代数)	1後	2		○	2							共同
		教材研究の基礎理論 (幾何)	1前	2		○	1						兼1	共同
		教材の開発と実践 (幾何)	1後	2		○	1						兼1	共同
		教材研究の基礎理論 (解析)	1前	2		○	1						兼1	共同
		教材の開発と実践 (解析)	1後	2		○	1						兼1	共同
		教材研究の基礎理論 (応用数学)	1前	2		○	1						兼1	共同
		教材の開発と実践 (応用数学)	1後	2		○	1						兼1	共同
		教材研究の基礎理論 (物理)	1前	2		○	1						兼1	共同
		教材の開発と実践 (物理)	1後	2		○	1	1						共同
		教材研究の基礎理論 (化学)	1前	2		○	1						兼1	共同
		教材の開発と実践 (化学)	1後	2		○	1						兼1	共同
		教材研究の基礎理論 (生物)	1前	2		○		1					兼1	共同
		教材の開発と実践 (生物)	1後	2		○		1					兼1	共同
		教材研究の基礎理論 (地学)	1前	2		○		1					兼1	共同
教材の開発と実践 (地学)	1後	2		○		1					兼1	共同		
教材研究の基礎理論 (電気)	1前	2		○		1	1					共同		
教材の開発と実践 (電気)	1後	2		○		1	1					共同		

コース別選択科目（教科領域コース）	（発展科目）	教材研究の基礎理論（機械）	1前	2	0	0	0	1	0	0	0	兼1	共同		
		教材の開発と実践（機械）	1後	2	0	0	0	1	0	0	0	兼1	共同		
		教材研究の基礎理論（材料加工）	1前	2	0	0	0	1	0	0	0	兼1	共同		
		教材の開発と実践（材料加工）	1後	2	0	0	0	1	0	0	0	兼1	共同		
		教材研究の基礎理論（スポーツ）	1前	2	0	0	0	0	0	0	0	兼2	オムニバス・共同（一部）		
		教材の開発と実践（スポーツ）	1後	2	0	0	1	1	0	0	0	兼2	オムニバス・共同（一部）		
		教材研究の基礎理論（健康）	1前	2	0	0	0	0	0	0	0	兼2	オムニバス・共同（一部）		
		教材の開発と実践（健康）	1後	2	0	0	0	1	0	0	0	兼1	オムニバス・共同（一部）		
		教材研究の基礎理論（食物）	1前	2	0	0	0	1	0	0	0	兼1	オムニバス・共同（一部）		
		教材研究の基礎理論（被服）	1前	2	0	0	0	1	0	0	0	兼1	オムニバス・共同（一部）		
		教材の開発と実践（食物・被服）	1後	2	0	0	0	1	0	0	0	兼2	共同		
		教材研究の基礎理論（保育・家庭生活）	1前	2	0	0	0	0	0	0	0	兼2	オムニバス・共同（一部）		
		教材の開発と実践（保育・家庭生活）	1後	2	0	0	1	0	0	0	0	兼1	共同		
		教材研究の基礎理論（器楽）	1前	2	0	0	0	0	0	0	0	兼3	オムニバス・共同（一部）		
		教材の開発と実践（器楽）	1後	2	0	0	0	0	0	0	0	兼3	オムニバス・共同（一部）		
		教材研究の基礎理論（鑑賞・創作）	1前	2	0	0	0	1	0	0	0	兼2	オムニバス・共同（一部）		
		教材の開発と実践（鑑賞・創作）	1後	2	0	0	1	0	0	0	0	兼2	オムニバス・共同（一部）		
		教材研究の基礎理論（歌唱）	1前	2	0	0	0	0	1	0	0	兼2	オムニバス・共同（一部）		
		教材の開発と実践（歌唱）	1後	2	0	0	0	0	1	0	0	兼2	オムニバス・共同（一部）		
		教材研究の基礎理論（絵画・彫刻）	1前	2	0	0	0	0	1	0	0	兼2	オムニバス・共同（一部）		
		教材の開発と実践（絵画・彫刻）	1後	2	0	0	0	0	1	0	0	兼2	オムニバス・共同（一部）		
		教材研究の基礎理論（デザイン・工芸）	1前	2	0	0	0	0	1	0	0	兼2	オムニバス・共同（一部）		
		教材の開発と実践（デザイン・工芸）	1後	2	0	0	0	0	1	0	0	兼2	オムニバス・共同（一部）		
		教材研究の基礎理論（美術理論・美術史）	1前	2	0	0	0	0	1	0	0	兼1	オムニバス・共同（一部）		
		教材の開発と実践（美術理論・美術史）	1後	2	0	0	0	0	1	0	0	兼1	オムニバス・共同（一部）		
		（課題研究）	教材開発課題研究1	1前	2	0	0	6	4	0	0	0	0	共同	
			教材開発課題研究2	1後	2	0	0	6	4	0	0	0	0	共同	
			教材開発課題研究3	2通	4	0	0	6	4	0	0	0	0	共同	
		小計（64科目）		—	0	130	0	—	10	9	2	0	0	兼40	
		コース別選択科目（特別支援教育コース）	（発展科目）	特別支援教育総論	1前	2	0	0	1	3	0	0	0	兼2	オムニバス
				障害児の聴能の理論と実際	1後	2	0	0	0	0	0	0	0	兼1	
				聴覚言語障害への心理学的対応	1後	2	0	0	0	0	0	0	0	兼1	
聴覚障害教育の理論と実践	1後			2	0	0	0	1	0	0	0				
聞こえの困難への教育的対応	1後			2	0	0	0	1	0	0	0				
認知機能の困難への心理的対応	1後			2	0	0	1	0	0	0	0				
運動機能の困難への心理的対応	1後			2	0	0	0	1	0	0	0				
保健医療福祉との連携と医療的対応	1後			2	0	0	0	0	0	0	0	兼1			
学校における支援体制	1後			2	0	0	0	1	0	0	0				
個別の指導計画の作成と実施	1後			2	0	0	0	1	0	0	0				
社会的自立・就労の指導	1後			2	0	0	0	0	2	0	0		オムニバス		
重複障害児の教育実践	1後			2	0	0	0	0	2	0	0		オムニバス・共同（一部）		
読み書き困難への対応	1後			2	0	0	0	0	2	0	0		オムニバス・共同（一部）		
計算・推論困難への対応	1後			2	0	0	1	1	0	0	0		オムニバス・共同（一部）		
行動上の問題への対応	1後			2	0	0	0	0	0	0	0	兼1			
アセスメントの方法と総合的解釈	1前			2	0	0	2	1	0	0	0		オムニバス		

目 育 （ 特 別 支 援 選 択 教 科 ）	（ 課 題 研 究 ）	特別支援教育課題研究1	1前	2			○	1	3				兼2	共同
		特別支援教育課題研究2	1後	2			○	1	3				兼2	共同
		特別支援教育課題研究3	1通	4			○	1	3				兼2	共同
		小計（19科目）	—	0	40	0	—	1	3	2	0	0	兼2	
実 習 科 目	異校種実習	1前	2			○	18	14	2					
	小規模校実習	1前	2			○	18	14	2					
	研究指定校実習	1後	2			○	18	14	2					
	連携校実習1	1通	4			○	18	14	2					
	連携校実習2	2通	4			○	18	14	2					
	連携校実習3	2後	2			○	18	14	2					
	特別支援教育連携校実習1	1通	4			○	1	3				兼2	共同	
	特別支援教育連携校実習2	2前	4			○	1	3				兼2	共同	
	特別支援教育連携校実習3	2後	2			○	1	3				兼2	共同	
小計（9科目）	—	0	26	0	—	19	17	2	0	0	兼2			
合計（136科目）			—	0	286	0	—	21	15	2	0	0	兼46	
学位又は称号		教職修士（専門職）			学位又は学科の分野			教員養成関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
<p>教育実践高度化専攻の修了要件は、共通科目20単位、選択科目16単位以上、学校における実習科目10単位、合計46単位以上修得することとする。</p> <p>共通科目は、各領域から2単位以上、合計20単位以上を修得する。</p> <p>課題研究について、リーダーシップ開発コースの履修者は「学校改善課題研究1・2」、教育実践開発コースの履修者は「授業改善課題研究1・2・3」、教科領域コースの履修者は「教材開発課題研究1・2・3」、特別支援教育コースの履修者は「特別支援教育課題研究1・2・3」の中から履修する。</p> <p>実習科目について、異校種実習、小規模校実習、研究指定校実習は、専攻共通の実習科目であり、いずれも選択科目である。リーダーシップ開発コース、教育実践開発コース、教科領域コースの履修者は連携校実習1を必修科目、連携校実習2・3を選択科目とする。特別支援教育コースの履修者は、特別支援教育連携校実習1を必修科目、特別支援教育連携校実習2・3を選択科目とする。</p>							1学年の学期区分			2期				
							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			90分				

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要

(教育学研究科教育実践高度化専攻)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通基礎科目	授業研究の開発実践	<p>本講座は、「研究授業」ではなく、「授業研究」の組織的開発のための資質・能力の育成を目指している。そのために、これまでの授業研究の歴史を概観し、代表的な分析手法を学んだうえで、これから求められる授業改善に向けたシステムや授業の在り方を理解する。また、愛媛県教育委員会が推進している研究開発の現状と課題について、フィールド研修を含めた実践事例研究を通して、組織的研究の在り方を策る。そこで明らかになった課題を解決する方策をまとめ、共有することを通して、新学習指導要領の全面実施にむけて、今後の授業研究の方向性を明らかにする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(25 兵藤清一/4回)</p> <p>授業研究に関する研究成果及び教育行政における研究企画政策等の実務経験に基づき、学校における授業研究の在り方についての理論と実践の統合の観点から、実践化に向けた示唆を行う。</p> <p>(26 高橋葉子/4回)</p> <p>授業研究に関する開発実践の実務経験に基づき、学校における授業研究の組織的開発に関する具体的方策について提案する。</p> <p>(25 兵藤清一・26 高橋葉子・28 藤堂浩伸/7回) (共同)</p> <p>授業研究に関する実務経験に基づき、各校種における校内研修の工夫改善、校種間連携等の具体的方策について提案する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
共通基礎科目	授業開発の理論と実際	<p>学習指導要領を踏まえた授業づくりの実践的方法について学ぶ。実際に中・高等学校で教育経験のある教員が、各回のテーマに沿って資料を準備し、受講生とのディスカッションを通して、授業開発の理論構築や授業展開のための実践力の伸長を図る。加えて、習得・活用・探究にふさわしい授業のあり方についても理解を深め、その教材を提案する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(11 吉村直道/1回)</p> <p>授業開発に関する総論を示す。</p> <p>(11 吉村直道・26 高橋葉子/4回) (共同)</p> <p>授業開発の基盤となる学力論や基礎理論、ならびに具体的な学習方法や多様な意見のまとめ方等について講義する。</p> <p>(11 吉村直道・33 井上洋一/5回) (共同)</p> <p>中学校での実務経験に基づき、授業開発の実際と課題の観点から受講生との協議に参加し、各回の講義内容の理解深化に取り組む。</p> <p>(11 吉村直道・25 兵藤清一/5回) (共同)</p> <p>授業研究に関する研究成果に基づき、授業開発の実際と課題についての理論と実践の統合の観点から協議に参加し、講義内容の理解深化に取り組む。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

共通基礎科目	教科等の実践的な指導方法に関する領域	心の教育の理論と実践	<p>規範意識の低下やいじめなどの現代的課題に対応するために、道徳教育を中心とし、集団活動・学校行事を視野に入れた心の教育の理論とその方法論について検討する。まず、道徳科を中心とした心の教育の取組について、事例検討を深め、具体的な授業案の作成を行う。さらに、授業案の検討を通して、教科化を視野に入れた道徳教育のあり方について考察する。また、集団活動・学校行事を中心とした取組についても同様に検討を行い、心の教育を実践する能力を育成する。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回)</p> <p>(5 太田佳光／15回) 主として、道徳教育の理論的視点から検討及び全体のコーディネートを行う。</p> <p>(23 山内孔／15回) 主として、中学校における道徳教育の実践的視点から検討及び指導助言を行う。</p> <p>(27 遠藤敏朗／15回) 主として、小学校における道徳教育の実践的視点から検討及び指導助言を行う。</p>	共同
共通基礎科目	教科等の実践的な指導方法に関する領域	授業における学習支援と指導法の事例分析	<p>前半では、特に特定の教科に限定せず、授業における学習支援について一般的に考究していく。まずは、主体的な学習者を育成する学習支援を考究するための基礎理論として、本授業では市川氏の「認知カウンセリング」の理解を図る。後半、外国語科・英語科、社会科、理科等での、具体的な教科指導のなかで、子どもたちのつまづきを予想し対応できる実践力の育成に努めていく。つまづきに対する指導力を高めていく。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(16 向平和／1回) 学習指導全般について概説する。 (16 向平和・34 立松大祐／6回) (共同) 個別指導を中心に概説する。後半は英語科に関する学習支援を中心に取り扱う。 (16 向平和・27 遠藤敏朗／6回) (共同) 全体指導を中心に概説する。後半は社会科に関する学習支援を中心に取り扱う。 (16 向平和・34 立松大祐・27 遠藤敏朗／2回) (共同) ガイダンス及び学習指導全般について協議する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
共通基礎科目	教科等の実践的な指導方法に関する領域	ICT教育の実践研究	<p>この授業では教育現場におけるICT関連の応用を学習する。この分野の技術革新は速いため、既存の技術や現時点の事例を知るだけでなく、本質的なメリットを理解し、主体的に教材教具の選定や開発ができる能力の獲得を目指す。まず、ICTによる業務改善方法、プログラミングを通じた教科の学習、各教科や各校種における実践事例を学ぶ。次に、自らの専門分野または校種におけるICTを活用した事例を調査または開発することを通じて、ICT教育の有用性や今後の展開を考えようとする態度を養う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(18 大西義浩・38 玉井輝之／11回) (共同) ICT教育についての理論的視点及び主要教科の実践的視点からの検討を行う。 (49 森慎之助／2回) ICT教育について、技術家庭科教育の視点から検討を行う。 (33 井上洋一／1回) ICT教育について、音楽教育の視点からの検討を行う。 (14 日野克博／1回) ICT教育について、体育教育の視点からの検討を行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

共通基礎科目	教科等の実践的な指導方法に関する領域	<p>小学校英語教育の実践研究</p>	<p>外国語活動・外国語科の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術と実践的な英語運用力を身につけるため、実習校や勤務校における授業実践例を教材の一部として活用し、受講者によるマイクロ・ティーチングにより授業づくりを実践的に考える。特に、主たる教材を使った効果的な指導方法、文字指導、小小・小中連携を意識した授業などを取り上げ、単元指導計画と学習指導案の作成とマイクロ・ティーチングを行い、指導と評価の方法を身につける。また、授業に必要なスピーキングの力を育成するため、クラスルーム・イングリッシュ、ALTとの授業計画のための英語表現、児童とのインタラクションに必要な対話を続けるための基本的な表現などを実践的に使用できる力を身につける。さらに、小学校外国語活動・外国語科に関する実践的研究を行うための基礎的能力を習得する。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回)</p> <p>(10 池野修／15回) 主として、小学校英語教育についての理論的視点から検討を行う。 (34 立松大祐／15回) 主として、小学校英語教育についての実践的視点からの検討を行う。</p>	共同
共通基礎科目	生徒指導及び教育相談に関する領域	<p>子どもの発達と感情</p>	<p>子どもの感情・社会性の心理を生涯発達の視点から学ぶとともに、感情コンピテンシーや社会情動的スキル等との関連で、学校における課題と教育実践・支援について考える。適応範囲の定型的な感情発達(例、基本的感情と自己意識的感情、興味形成、愛着、共感性、感動、自尊感情、感情のコントロールなど)を主軸としつつも、各発達段階の課題等との関連で、ストレスや対象喪失(死別)、怒り、孤独などネガティブな感情とその制御も検討される。さらに、これらの側面に影響する認知(想像力、思考、記憶、メタ認知)の発達や、社会的関係(家族、仲間、教師)、性的成熟、自己発達(自己概念・アイデンティティの形成)の関わりをとりあげ、教育・支援を考える。授業者橋本は、学齢期の子ども及び成人の発達と感情に関する研究成果に基づき、実践と理論の統合の観点から講義を行う。それを踏まえて受講者各自は選択したテーマの学習成果を発表し、ディスカッションと補足講義等により、感情・社会性発達の実際と教育課題について考察を行う。</p>	
共通基礎科目	生徒指導及び教育相談に関する領域	<p>生徒指導・進路指導の実践研究</p>	<p>本講座は、学校経営の重要な柱の一つである生徒指導・進路指導について、学校経営的な観点から考えていこうとする資質や能力の育成を目指すものである。講座では、第1ステージでは進路指導・キャリア教育を、また、第2ステージでは生徒指導を取り上げ、それぞれの現状から取り組むべき課題を考察し、その改善に向け、関係機関や専門家、学校段階間の連携を図りながら学校全体で組織的に取り組んでいくための方策について具体的事例を織り交ぜながら検討していくことを中心に構成している。講座のまとめとなる第3ステージでは、ミドルリーダー及び管理職の観点に立った生徒指導・進路指導の充実のための実践課題を明らかにする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(4 尾川満宏・22 城戸茂／7回) (共同) 第1ステージ：生徒指導及び進路指導について理論的・実践的視点から検討する。 (4 尾川満宏・22 城戸茂・28 藤堂浩伸／8回) (共同) 第2ステージ：実務経験豊富な藤堂浩伸が参加することで、事例研究やロールプレイを主に実施する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

<p>共通基礎科目</p>	<p>生徒指導及び教育相談に関する領域</p>	<p>子ども理解の心理アプローチ(調査法)</p>	<p>本授業は、学校教育における「教師による子ども理解」のしくみと働きを理解し、実践的・省察的態度のもとで子ども理解に取り組む基礎を修得することを目指す。まず、子どもへの理解を含む他者理解の仕組みに関する理論と人間観に触れ、ステレオタイプ等の影響とそれに気づく省察や共感的理解の重要性を学ぶ。また学校の様々な場面で子ども理解に活用される面接法、質問紙調査法、および統計的分析法などの心理学的調査方法の基礎を実習し、倫理的配慮をも併せて学ぶことにより、教育現場でそれらの調査方法を実践に活かすための素養を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(3 橋本巖/10回)</p> <p>子どもの多様な心理発達(感情、自己意識、学習意欲と目標、失敗からの成長など)と、それらに対する教師による働きかけや学級適応の影響に関して、主に質問紙法によって研究成果を蓄積してきた。それに基づき、教師による子ども理解のための心理学的理論、調査方法論と倫理、及び量的データの分析方法について考察する。</p> <p>(31 樫木暢子/5回)</p> <p>特別支援教育に関する理論的研究成果と豊富な実践経験に基づき、臨床的フィールドワークの観点から、主に調査面接による子ども理解の方法論と倫理について考察を行う。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>共通基礎科目</p>	<p>生徒指導及び教育相談に関する領域</p>	<p>特別支援教育の理論と実践</p>	<p>日本における障害児教育について、特殊教育から特別支援教育、インクルーシブ教育に至る歴史的流れを概説する。また、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱、発達障害などの障害の概要、障害特性、個別の教育支援計画、個別の指導計画について概説する。通常の学校に在籍する特別な教育的ニーズのある児童生徒への支援について、ケースレポートを作成させ、ディスカッションを行う。学びにくさやコミュニケーションの困難がある児童生徒への対応について理解を深め、実践的能力を高める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(59 立入哉/2回)</p> <p>聾学校における支援経験から、特別支援教育の概説及び聴覚障害に対する支援について考察する</p> <p>(6 吉松靖文/3回)</p> <p>通常の学校及び特別支援学校における支援実績から、個別の教育支援計画・指導計画について概説するとともに、知的障害及びADHD、ASD、LD等の発達障害に対する支援について考察する</p> <p>(31 樫木暢子/3回)</p> <p>特別支援学校での授業研究に関する実務経験に基づき、肢体不自由への通常の学校での支援について考察する</p> <p>(32 加藤哲則/2回)</p> <p>特別支援学校での授業研究に関する実務経験に基づき、キャリア発達と社会的自立、聞こえや言葉の困難への通常の学校での支援について考察する</p> <p>(7 荻田知則/3回)</p> <p>学校現場における視覚支援、コミュニケーション支援の実績を踏まえ、視覚障害の理解、通常の学級に在籍する子どもへの支援について考察する</p> <p>(76 中野広輔/2回)</p> <p>特別支援医学の立場から、病虚弱の基礎疾患、通常の学校における健康教育について考察する</p>	<p>オムニバス方式</p>

共通基礎科目	学級経営及び学校経営に関する領域	学級経営の理論と実践	<p>(講義等の内容)</p> <p>本授業は、現代の教育課題への対応などを踏まえ、望ましい学級経営の在り方とその方法論について、特別活動や学級づくりの視点から検討する。まず学級経営の理論的展開として、準拠集団論、リーダーシップ論などについての理解を深め、学級経営の基本的な視座を獲得する。その上で具体的な学級経営の方法について、実践事例を中心とした検討と具体的な学級経営案の作成を行い、望ましい学級経営の在り方についての実践的指導力を育成する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(27 遠藤敏朗／4回)</p> <p>時代の変化や児童生徒の実態に適応しつつ、普遍的な教師としての在り方について事例分析を行いながら考察する。また、小学校教諭、管理職としての実務経験を活かして、俯瞰的な視点、教員の資質・能力育成や教員自身のキャリア形成の視点も踏まえた学級経営の在り方について考察を行う。</p> <p>(30 藤原一弘／4回)</p> <p>小学校教諭、中学校教諭、教育委員会指導主事としての実務経験を活かして、教育現場の今日的課題を踏まえた学級づくり、カリキュラムマネジメントや小中高の接続や連携の観点から学級経営の在り方について実例を挙げながら考察を行う。</p> <p>(22 城戸茂／4回)</p> <p>中学校教諭、教育委員会指導主事、文部科学省教科等調査官としての実務経験を活かし、これからの教育に求められる学級経営の在り方について考察を深めるとともに、学校全体の中での学級経営の在り方について、学級経営案づくりを通して、理解を深める。</p> <p>(27 遠藤敏朗・30 藤原一弘・22 城戸茂／3回) (共同)</p> <p>ガイダンス及び全体の発表会において指導助言を行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
共通基礎科目	学級経営及び学校経営に関する領域	学校組織のリーダーシップ	<p>本科目の到達目標は、校区レベルで人々を動かすために、自校の問題を洗い出し、変革のための具体的方法を提案することができることである(学部卒業者は学級レベルに読み替え)。学校組織とリーダーシップに関する基礎理論の理解を深めるとともに、講義において学習した理論・視点に基づき実習校において調査を行う。その結果を1週間後の演習・協議枠において、グループ代表者が発表し、ミニ協議を行う。学校改善の理論と実践の往還を意図した授業デザインを持つ授業科目である。</p>	
共通基礎科目	学級経営及び学校経営に関する領域	データを活用した学校経営(調査法)	<p>本科目の到達目標は、データを活用した学校経営の技法を習得することである。近年英米を中心に、データを活用した学校経営が注目されている。学校管理職には、学校に溢れるデータを活用し、人々を動かす能力が求められつつある。これは、日本でも将来的に、学校管理職に求められる能力であると考えられる。そこで、本科目では、データを活用した学校経営の基礎論を学ぶとともに、その具体的方法について学習する。データ分析・表現法を習得した後、勤務校にある既存データ、勤務校において新規作成したデータからデータベースを作成し、実際に分析を行う。また、改善策の検討、分析結果と提案の勤務校へのフィードバック、学校管理職との省察協議を行うことで、データを活用した学校経営の技法について実体験を通して習得する。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回)</p> <p>(1 露口健司／15回)</p> <p>計量的データ解析に関する研究成果に基づき、データを活用した学校経営の理論と方法について、理論と実践の統合の観点から考察を行う。</p> <p>(4 尾川満宏／15回)</p> <p>質的データ解析に関する研究成果に基づき、データを活用した学校経営の理論と方法について、理論と実践の統合の観点から考察を行う。</p>	共同

<p>共通基礎科目</p>	<p>学級経営及び学校経営に関する領域</p>	<p>子どもの資質・能力を高める学校経営論</p>	<p>現行学習指導要領改訂において育成すべき資質・能力の三つの柱として「知識や技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう力・人間性の涵養」が示された。これらについて愛媛県の施策等を勘案しながら具体的に理解するとともに、発達段階に応じてどのような力をつけていけばいいのかを明らかにすると共に、自身がデザインする学校園における資質・能力育成の計画案を作成し発表する。</p> <p>そのため。前半には、事例を基に、学校・園でどのように育成しているか調査し、効果的な取組と課題、改善点について検討する。後半は、そのために学校・園の経営方針、グランドデザインをどう組み立てていけばよいか、そのためには学級経営、教科経営等をどう積み上げていけばいいのかを考察する。自分自身がデザインする子ども像に対して資質・能力を育てる目標及び経営計画を策定し提案、さらに検討する。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回)</p> <p>(81 吉田慎吾／15回)</p> <p>学力向上推進計画等県教育行政全体を主導した経験に加え、学校現場での豊富な実務経験により、子どもの資質・能力についての実態を踏まえた理論と具体的な実践について、実務家の観点から考察する。</p> <p>(23 山内孔／11回)</p> <p>学校現場と行政での豊富な実務経験に基づき、子どもの資質・能力を育てるための具体的取組とその課題、解決策について、実務家の観点、理論と実践の統合の観点の両面から考察する。</p> <p>(1 露口健司／9回)</p> <p>授業研究、学校組織、学校経営の研究正解に基づき、子どもの資質・能力を開発するために、理論と実践の統合の観点から考察する。</p>	<p>共同</p>
<p>共通基礎科目</p>	<p>学校教育と教員の在り方に関する領域</p>	<p>教員の成長と職業倫理</p>	<p>社会の大きな変動する中、教員に対する揺るぎない信頼を確立できるよう、確かな倫理観に基づき、日々の成長していくことで教員の資質能力を高めることが重要である。そのために本講座では、学校が法令に基づき運営されていることから前半は教育関係法令に熟知し、自分自身の在り方を改善する知見を得ることを目的としている。しかしながら、自身の各ライフステージに応じしっかりとした目標を掲げて適切な発達を行っていれば、取り立てて法令や規則の確認に終始しなくとも、健全で豊かな教員人生を送ることができ。そこで、後半には、教員のキャリア発達をライフステージごとに理解し、そこで求められる資質や能力をまとめることと、職業倫理の認識の深化過程を理解することを目的としている。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回)</p> <p>(23 山内孔／15回)</p> <p>主として小中学校の学校現場と行政での豊富な実務経験に基づき、教員のライフステージに応じたやりがいと課題の探究について、実務家の観点から考察する。</p> <p>(29 掛水高志／15回)</p> <p>主として小中学校の学校現場と行政での豊富な実務経験と教育センターでの研究成果に基づき、理論と実践の統合の観点から考察する。</p>	<p>共同</p>

共通基礎科目	学校教育と教員の在り方に関する領域	教師のライフストーリー 省察と資質能力開発	<p>本授業は「教師のライフストーリー」研究（質的調査法）の手法を用いながら、教師としての資質能力を向上させることを目的とする。</p> <p>(1) ライフサイクル／ライフストーリーモデルによる資質能力開発の違いが説明できる。</p> <p>(2) ライフストーリー分析を用いて教師の仕事と生活の在り方を考察することができる。</p> <p>(3) 社会の変化からみる教師のソーシャルスキルの重要性と適応方法を説明することができる。</p> <p>また、本授業は、発達理論としてのライフサイクル論とナラティブ理論としてのライフストーリー論の相違点を理解し、教師の資質能力開発の様々な文脈を考察する。そして、ライフストーリーの手法を用いて、教師の仕事と生活の在り方を分析し、事例研究を行う。また教師の仕事と生活に影響を与える社会の変化を理解し、変化の激しい社会における教師のソーシャルスキルの重要性とソーシャルスキルの適応方法について、ワークショップを交えて実践的に考察する。</p>	
共通基礎科目	学校教育と教員の在り方に関する領域	学校・家庭・地域の 連携論	<p>「学校園・子どもの成長を支える家庭・地域との連携の在り方と具体的実践への取組」をテーマとする。現職教員においては、連携推進の具体的方策を考えさせ、学部卒業者等は、連携の意義を理解して、これからの学校における家庭・地域との連携の在り方について考えさせる。授業においては、学校・家庭・地域のそれぞれの教育力について学んだ後で、県内外の特色ある事例に学びながら、連携の必要性や効果について考える。そして、地域連携実習や自らの経験も踏まえながら、ワークショップ形式で意義を考えさせる。その際、院生自身が情報を収集して、主体的・対話的で深い学びに向かうスタイルの授業にしていき、自分事として考えさせたい。また、地域全体で行われる地域教育の考え方を学び、地域総がかりの教育の在り方を探っていく。</p> <p>授業には、外部講師を招いたり、ICTを活用したりして、できるだけ、実践を大切にしたい。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(27 遠藤敏朗／8回)</p> <p>特色ある事例の紹介、地域教育の考え方を学ばせ、学校・家庭・地域のよりよい連携の在り方を担当学生に考えさせる。</p> <p>(26 高橋葉子／4回)</p> <p>学校・家庭・地域の教育力の変化や課題を把握させ、特色ある事例の紹介を行う。</p> <p>(50 青井倫子／3回)</p> <p>幼児教育の視点から、特色ある事例を紹介し、学校・家庭・地域の連携の意義を担当学生に考えさせる。</p>	オムニバス方式
共通基礎科目	学校教育と教員の在り方に関する領域	愛媛の教育改革	<p>本講座においては、第1ステージでは、教育研究の方法について学習した後、愛媛県の教育の現状や課題について、県及び市町の教育行政担当者及び研究団体、管理職の講話を通して理解する。大学教員や外部講師の講義が中心となる。第2ステージでは、実地視察を通して、当該教育改革が求められる背景・文脈、並びに教育改革が具現化する過程について探究を行う。学校を訪問しての実施学習が中心となる。第3ステージでは、愛媛県教育委員会が示す基本方針及び、愛媛の教育課題を踏まえ、自己の研究課題を示しその意義についてエビデンスを踏まえて説明し、協議することを通して自己の研究課題を鮮明にする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(1 露口健司／1回)</p> <p>教育研究の方法と愛媛県の教育実態の概論</p> <p>(22 城戸茂／10回)</p> <p>授業全体のファシリテーターを務める</p> <p>(28 藤堂浩伸／2回)</p> <p>研究構想・発表の指導助言を務める</p> <p>(1 露口健司・22 城戸茂・28 藤堂浩伸／2回) (共同)</p> <p>ガイダンス及び全体のまとめを行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

コース別選択科目	リーダーシップ開発コース	エビデンスに基づく教育政策・事業分析	<p>本科目の到達目標は、国内及び愛媛県内の教育政策・事業の動向について理解を深めるとともに、当該政策・事業成果のエビデンスとされている様々な資料やデータの分析・検討を通して、政策立案・分析に必要なスキルを獲得することである。日本における教育政策・事業の全国・県内動向を理解するとともに、当該政策・事業成果検証のためのエビデンス（科学的根拠）の質を分析するとともに、「自分ならどのような指標を経て、どのような方法で分析するか」を検討する。分析・検討の水準を高めるため、多変量解析等の計量分析の手法についても適宜学習の機会を取り入れる。事例として扱う教育政策・事業としては、コミュニティ・スクール、業務改善事業、ICT環境整備事業、チーム学校、育成指標と教員研修、教職大学院等を設定する。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回)</p> <p>(1 露口健司／15回) 教育政策・事業に関する研究成果に基づき、エビデンスを基礎においた教育政策・事業分析の理論と方法を、理論と実践の統合の視点から考察する。</p> <p>(25 兵藤清一／15回) 教育政策・事業の形成及び運営に関する豊富な実務経験に基づき、エビデンスを基礎をおいた教育政策・事業分析の課題と解決策について、実務家の観点から考察を行う。</p>	共同
コース別選択科目	リーダーシップ開発コース	人材育成演習	<p>スクールリーダーには、人材育成についての知識と実践力が求められる。本授業では、これらの基礎となる理論と実践について学ぶ。人材育成のキーワードとして、4つの領域について学ぶ。A領域：教職キャリア論（主に、教員育成指標の概要について学び、学校での生かし方を提案する。）B領域：目標管理論（モチベーション向上の方法論としてとらえ、効果的な運用方法を提案する。）C領域：チーム学校のスタッフ育成（教員のみならず、専門的スタッフの育成についても学ぶ。）D領域：若手層の育成（松山市教育研修センターの3年目研修において、開発育成プログラムを実践する。）</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回)</p> <p>(1 露口健司／15回) 教員評価に関する研究成果に基づき、学校での教員評価（目標管理・業績評価）や人材育成について、理論と実践の統合の視点から考察を行う。</p> <p>(26 高橋葉子／15回) 学校現場での指導的立場からの豊富な実務経験、及び学校現場を指導してきた指導主事経験に基づき、教員評価・人材育成についての諸課題と具体的方法について、実務家の観点から考察を行う。</p>	共同
コース別選択科目	リーダーシップ開発コース	教員研修プログラム開発演習	<p>本科目の到達目標は、スクールリーダーとしての自覚のもと、今日の学校を対象とする新たな研修（行政研修・校内研修）を開発するための知識を習得するとともに、実際に開発し提案する能力を習得することにある。四国内の教職大学院との連携による双方向型遠隔授業と集合対面型授業を併用した科目である。第1回から第9回は、双方向型遠隔授業として、新たな行政研修・校内研修として注文されている業務改善研修、コンプライアンス研修、地域連携推進研修、若年層教員を対象とした人材育成研修をテーマとして、実地指導講師の講義とその次回の演習をワンセットとした学習活動を実施する。第10回から第15回は、各教職大学院の学生が1カ所に集合し、ワークショップ形式で研修プログラム開発にあたり、作成したプログラムを発表する。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回)</p> <p>(1 露口健司／15回) 教員研修・人材育成に関する研究成果に基づき、教員研修プログラム開発の理論と方法について、理論と実践の統合の観点から考察する。</p> <p>(26 高橋葉子／15回) 小・中学校における教員研修・人材育成に関する豊富な実務家経験に基づき、学校における教員研修・人材育成の実際と課題について、実務家の観点から考察を行う。</p>	共同

コース別選択科目	リーダーシップ開発コース	カリキュラムマネジメントと校内研修	<p>本科目の到達目標は、各ライフステージにおける課題を理解できていること（育成指標への対応）、メンタルヘルスを良好に維持する職場のあり方を理解していること（多忙化緩和）、研究授業・検討会の在り方が修得できていること（Lesson Study）、課題に応じた研修体制のあり方が理解できていること（Knowledge Management）にある。各ライフステージにおいてどのような資質能力が求められているのかを理解し、それらの資質能力を高めるために、ミドル・リーダーとしてどのようにサポートするべきであるのかを修得し、さらに学校全体としてどのような体制づくりが必要であるのかを自校をモデルとして考える。また、学校全体で取り組むカリキュラム開発の理論的枠組みを学びつつ、あわせて学校の研修システムのあり方(Lesson study Knowledge Management)についても考察を深める。</p>	
コース別選択科目	リーダーシップ開発コース	信頼を構築する学校危機管理	<p>学校における信頼構築を、学校危機管理という「防御」面と、保護者関係マネジメントという「攻勢」面から理解し、それぞれについて信頼をベースに置いた具体的計画を策定できる対応能力を習得する。前半では、既存の危機管理マニュアルの点検を基に、危機管理計画を作成するとともに、計画を事前、事中、事後の観点から運用していく事例についても学習する。後半では、学校は子どもとの信頼関係が最も重要であるが、状況悪化因子としての保護者・地域・マスコミとの関係性をどう構築するかについて検討する。生きた事例を対象とすることを意図し、いくつかの事例については、現職の学校管理職を外部講師として招聘する。</p> <p>（チーム・ティーチング方式／全15回）</p> <p>（81 吉田慎吾／15回）</p> <p>学校危機管理事例に対する行政と学校現場での豊富な実務経験により、信頼をベースに置いた危機管理の在り方について、理論と実践を総合的に考察する。</p> <p>（23 山内孔／15回）</p> <p>学校現場での豊富な実務経験に基づき、危機管理事例の実際と課題、解決策について、実務家の観点から考察を行う。</p>	共同
コース別選択科目	リーダーシップ開発コース	地域とともにある学校の経営	<p>「新しい時代の連携・協働の仕組みについての学び～コミュニティ・スクール等の事例～」をテーマとする。現職教員については、地域とともにある学校を経営するための考え方を身に付け、コミュニティ・スクール等の優れた事例を活用して、具体的な方策を提案させ、学部卒業者等については、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の考え方を理解して、教員としての役割を具体的に考えさせる。授業においては、連携・協働の仕組みを、コミュニティ・スクール等の事例から学び、地域とともにある学校の経営について考察する。また、具体的に実践している学校の取組に学び、自らの立場での役割について提案できるようにさせたい。授業は、講義形式だけでなく、事前課題や調査などを取り入れたり、様々な研修会での参加による学びを紹介し合ったりさせたい。また、必要に応じて、講師を招聘したり、遠隔授業に挑戦したりして、未来志向の学校経営につなげたい。</p> <p>（チーム・ティーチング方式／全15回）</p> <p>（27 遠藤敏朗／15回）</p> <p>コミュニティ・スクールや地域とともにある学校経営についての実践的視点から検討を行う。</p> <p>（26 高橋葉子／15回）</p> <p>小学校における地域とともにある学校経営、保護者・地域連携についての実践的視点からの検討を行う。</p> <p>（25 兵藤清一／15回）</p> <p>中学校における地域とともにある学校経営、保護者・地域連携についての実践的視点からの検討を行う。</p> <p>（4 尾川満宏／15回）</p> <p>地域とともにある学校についての理論的視点からの検討を行う。</p>	共同

<p>コース別選択科目</p>	<p>リーダーシップ開発コース</p>	<p>学校改善の実践的研究</p>	<p>本科目の到達目標は、学校改善を推進するマネジメントとリーダーシップについての理解を深めること、勤務校を対象とする学校改善戦略を策定し、提案することができるようになること、勤務校・地域における学校改善推進の意欲をさらに高めることの3点である。本科目は、四国内の他の教職大学院と連携した双方向型遠隔授業である。前半は、事例分析を通して、ビジョン、戦略、成果指標、そして、改善におけるソーシャル・キャピタルの重要性を理解する。また、学校改善においては、学力向上だけでなく、幸福感の向上も、スクリーンリーダーの使命であることを理解する。これらの基本的知識を習得した後、勤務校を対象とする学校改善戦略を策定し、発表による相互交流を行い、学習を深める。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回)</p> <p>(1 露口健司／15回) 学校改善とスクールリーダー論の研究成果に基づき、主に小・中・高等学校における学校改善の理論と方法について、理論と実践の統合の観点から考察を行う。</p> <p>(25 兵藤清一／15回) 学校改善に関する豊富な実務経験に基づき、学校経営上の教育・経営課題と解決策について、実務家の観点から考察を行う。</p>	<p>共同</p>
-----------------	---------------------	-------------------	--	-----------

<p>コース別選択科目</p>	<p>リーダーシップ開発コース</p>	<p>学校改善課題研究1</p>	<p>本科目の到達目標は、以下の3点である。すなわち、①学校での支援実践を通して、課題を発見し、その解決案を構想することができる。②指導チームで検討した解決策を、学校の実情に応じて実行することができる。③課題研究プレゼンテーションのテーマを設定することができる、である。前期連携校実習での実践支援経験を、報告・省察することによって、実践知を形成する。また、当該実習において発見した実践課題を共有し、改善策を指導チーム（連携校実習の実習アドバイザー＝連携協力校教員、研究者教員、実務家教員の3名で構成）において検討する。課題研究プレゼンテーションに向けての課題探索の機会として位置づけられる。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回)</p> <p>(1 露口健司／15回) 学校改善論及びリーダーシップ論の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(4 尾川満宏／15回) キャリア教育論及び生徒指導論の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションのために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(22 城戸茂／15回) 学校での実務経験を基にして、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションのために、実践的側面から指導を行う。</p> <p>(23 山内孔／15回) 学校での実務経験を基にして、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションのために、実践的側面から指導を行う。</p> <p>(24 池田哲也／15回) 学校での実務経験を基にして、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションのために、実践的側面から指導を行う。</p> <p>(26 高橋葉子／15回) 学校での実務経験を基にして、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションのために、実践的側面から指導を行う。</p> <p>(27 遠藤敏朗／15回) 学校での実務経験を基にして、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションのために、実践的側面から指導を行う。</p> <p>(25 兵藤清一／15回) 学校での実務経験を基にして、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションのために、実践的側面から指導を行う。</p> <p>(28 藤堂浩伸／15回) 学校での実務経験を基にして、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションのために、実践的側面から指導を行う。</p>	<p>共 同</p>
-----------------	---------------------	------------------	---	------------

<p>コース別選択科目</p>	<p>リーダーシップ開発コース</p>	<p>学校改善課題研究2</p>	<p>本科目の到達目標は、以下の3点である。すなわち、①学校での支援実践を通して、課題を発見し、その解決案を構想することができる。②指導チームで検討した解決策を、学校の実情に応じて実行することができる。③1年間の学習及び実践の成果を、「実践研究報告書」にまとめ、課題研究プレゼンテーションにおいて豊かな表現力をもって報告することができる、である。後期連携校実習での実践支援経験を、報告・省察することによって、実践知を形成する。また、当該実習において発見した実践課題を共有し、改善策を指導チーム（連携校実習の実習アドバイザー＝連携協力校教員、研究者教員、実務家教員の3名で構成）において検討する。本科目は、課題研究プレゼンテーションに向けてのテーマ探究の機会、そして、計画作成・報告準備の機会として位置づけられる。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回)</p> <p>(1 露口健司／15回) 学校改善論及びリーダーシップ論の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(4 尾川満宏／15回) キャリア教育論及び生徒指導論の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションのために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(22 城戸茂／15回) 学校での実務経験を基にして、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションのために、実践的側面から指導を行う。</p> <p>(23 山内孔／15回) 学校での実務経験を基にして、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションのために、実践的側面から指導を行う。</p> <p>(24 池田哲也／15回) 学校での実務経験を基にして、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションのために、実践的側面から指導を行う。</p> <p>(26 高橋葉子／15回) 学校での実務経験を基にして、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションのために、実践的側面から指導を行う。</p> <p>(27 遠藤敏朗／15回) 学校での実務経験を基にして、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションのために、実践的側面から指導を行う。</p> <p>(25 兵藤清一／15回) 学校での実務経験を基にして、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションのために、実践的側面から指導を行う。</p> <p>(28 藤堂浩伸／15回) 学校での実務経験を基にして、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションのために、実践的側面から指導を行う。</p>	<p>共同</p>
<p>コース別選択科目</p>	<p>教育実践開発コース</p>	<p>教材開発高度化演習</p>	<p>教育経験のある教員が学習者の関心・意欲を喚起できる教材の提案を行い、それを参考に受講生がディスカッションし基礎・基本に関わる内容の教材と発展的内容にかかわる教材を提案して、それらを評価・改善しながら共有していく。受講生は、グループでの協働的な活動を基本として、多様な視点を取り入れながら教材開発に取り組む。その一連の活動を、算数、国語、社会、音楽、外国語、道徳の6つの教科で行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(11 吉村直道／5回) 算数科における教材開発について指導する。</p> <p>(11 吉村直道・26 高橋葉子／2回) 国語科における教材開発について指導する。</p> <p>(11 吉村直道・27 遠藤敏朗／2回) 社会科における教材開発について指導する。</p> <p>(11 吉村直道・33 井上洋一／2回) 音楽科における教材開発について指導する。</p> <p>(11 吉村直道・34 立松大祐／2回) 外国語科における教材開発について指導する。</p> <p>(11 吉村直道・5 太田佳光／2回) 道徳科における教材開発について指導する。</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p>

コース別選択科目	教育実践開発コース	<p>特別な教育ニーズへの対応</p>	<p>特別支援教育の進展に伴い、通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズを有する子どもたちへの対応が学校教育の課題となっている。この課題に対して本授業では、子どもの発達段階及び学齢期の発達課題について理解を深め、学習上の困難や社会性の困難がある事例への対応方法を検討する。また、実習での経験を踏まえて、特別な教育的ニーズを有する子どもたちへの対応を含めた学習指導案を作成し、具体的な方策を検討する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(31 榎木暢子/9回)</p> <p>特別支援学校での授業研究に関する実務経験に基づき、通常の学校に置ける個別的教育支援計画、個別の指導計画等の活用について概説するとともに、ケースを想定した通常の学校における授業について検討する</p> <p>(7 菊田知則/6回)</p> <p>通常の学校における支援の研究を踏まえ、学習困難への対応、社会性に関するスキルの課題への対応を検討する</p>	オムニバス方式
コース別選択科目	教育実践開発コース	<p>学級経営の事例研究</p>	<p>学級経営や生徒指導の最新の実践事例や問題事象をもとに、学級経営および学級経営の充実を通じた生徒指導の実践的指導力を高める。到達目標は以下の3点である。</p> <p>(1)学級経営及び生徒指導の理論に基づき、実践的に事例を考察することができる。</p> <p>(2)事例を通じたディスカッションを通して、同僚性を高めるコミュニケーションスキルを身につけることができる。</p> <p>(3)教育臨床学的知識・技能を用いて、学級経営・生徒指導上の課題を考察することができる。</p> <p>いじめ・不登校、学級崩壊や校内暴力の低年齢化など、学級経営に関する問題が議論されている。これらの問題解決に向き合う上で、学級経営の質を高め、学級経営の充実を通じて生徒指導を充実させることが求められている。そこで、様々な事例をもとに、ディスカッション、ロールプレイ、ワークショップを行い、実践的に、学級経営や生徒指導に資する資質能力の開発を行う。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式/全15回)</p> <p>(2 白松賢/15回)</p> <p>学級経営の事例を、主として教育社会学の理論的側面から検討する。</p> <p>(22 城戸茂/15回)</p> <p>学級経営の事例を、主として特別活動の理論的・実践的側面から検討する。</p>	共同
コース別選択科目	教育実践開発コース	<p>教育課題解決のための教育プログラム開発演習</p>	<p>いじめ問題、ネットモラル教育など、現在学校教育現場で生起している諸課題について、深く理解し、その解決のためのプログラムを作成する事ができる。具体的には、①現代的教育課題の現状と特質を理解する事ができる。②教育課題解決のための基本的な視座を理解し、具体的なプログラム開発ができる、の2点が目標である。</p> <p>いじめをはじめとする様々な教育課題への対応を考え、その解決のための教育プログラム開発を演習形式で行う。とりあげる教育課題は、いじめ、思春期問題（性教育、薬物乱用防止、学校や社会への適応）、ネットモラル教育である。それぞれの課題の代表的な事例を検討し、その解決プログラムを、特別活動、道德教育、総合的な学習の時間を中心として開発する。それぞれの開発プログラムの作成と検討を通して、教育課題解決のための実践的能力の育成を図る。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2 白松賢/7回)</p> <p>いじめやネットモラル等の教育課題について、教育社会学の視点から、主として理論的に検討する。</p> <p>(30 藤原一弘/6回)</p> <p>いじめやネットモラル等の教育問題について、特別活動の視点から主として実践的に検討する。</p> <p>(2 白松賢・30 藤原一弘/2回) (共同)</p> <p>ガイダンス及び全体のまとめを行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

コース別選択科目	教育実践開発コース	児童生徒・保護者の教育相談実践	<p>授業の到達目標 (1)児童生徒の様々な問題行動を理解し、教育相談の実践方法を習得している。 (2)児童生徒の協力者としての保護者と連携し、教育相談を実践的に進めることができる。 概要：家庭環境や地域環境の変化に伴い、児童生徒の問題に保護者といかに協力・連携関係を紡ぎ協働していくかが、学校教育の課題となっている。この課題に対して本授業では、児童生徒の発達課題や問題行動への理解を深め、教育相談の具体的方法を検討し、その実践力を習得する。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回)</p> <p>(67 信原孝司／15回) 主として、カウンセリングの理論的・実践的視点から、検討を行う。 (31 榎木暢子／15回) 主として、特別支援教育の理論的・実践的視点から検討を行う。</p>	共同
コース別選択科目	教育実践開発コース	集団づくりの道徳論的アプローチ	<p>道徳教育は道徳科を要とし、学校教育活動全体での教育活動を通して行うことで、個々の人格形成だけでなく、集団づくりにも寄与している。また、話し合い活動等を通じて道徳科を充実するためにも、他者の意見に耳を傾け、自分の考えを表明し合う集団の育成が必要である。本授業ではそうした集団づくりに関する道徳や倫理の理論的背景を理解するとともに、具体的な実践を構想し、実行することを目指す。そこで本授業では、まず、問題解決的な学習・話し合い活動等、道徳科に限らず各教科・領域に共通する思考過程や集団決定の特徴を紹介する。次に、道徳科と特別活動の横断的な取組について、事例検討を深め、集団づくりに焦点化した道徳教育の単元を構想し、発表する。さらに、社会情動的スキルの育成等の観点に立って学校全体のカリキュラムを視野に入れた集団づくりについて、学校の全体計画や別様の作成等を作成し、発表する。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回)</p> <p>(5 太田佳光／15回) 主として、道徳教育・倫理に関する理論的視点からの検討を行う。 (23 山内孔／15回) 教育委員会・校長等の経験を通して、実践的視点からの指導助言を行う。</p>	共同
コース別選択科目	教育実践開発コース	生徒指導機能を生かした学習指導	<p>生徒指導の機能を発揮させることで、子どもたちは生き生きと学習に取り組み、学級集団の中での居場所を作ると共に、学力の向上を図ることができる。授業論に基づいた授業を展開する中で、教師がどのように生徒指導機能を生かすかが授業力向上において重要である。そこで、様々な事例を基に授業の中でどのように生徒指導が機能しているかを検証する。また、実際に学習指導案を作成し、模擬授業を通して生徒指導機能を生かした授業の在り方を研究し、自身の授業力向上に努める。さらに、どのようにして子どもに確かな学力を育成するのか、学級における学力向上計画を立案し、検討する。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回)</p> <p>(28 藤堂浩伸／15回) 学力向上と授業評価に関する施策を主導し確実な向上を果たした行政における実績と学校現場と行政経験を通して培った生徒指導に関する実務家としての豊かな識見により、生徒指導機能を生かした授業づくりについて、実務家の観点から考察する。 (23 山内孔／15回) 学校現場での豊富な実務経験と学力向上に関する理論と効果的方法について、実務家の観点、理論と実践の統合の観点の両面から考察する。</p>	共同

コース別選択科目	教育実践開発コース	子どもの問題行動の事例研究	<p>授業の到達目標</p> <p>(1)児童生徒の問題行動の背景を理解し、個別対応的な実践力を習得している。</p> <p>(2)学校現場の实情に即して児童生徒の問題行動を理解し、研究的アプローチを進めることができる。</p> <p>概要：時代の変遷とともに家庭環境や地域環境は変化し、児童生徒の問題行動の深刻化が指摘されている。本授業では、事例研究の手法を通して、児童生徒への個別対応の意義を考え、児童生徒の問題行動への理解を深め、個別対応的な実践力の習得を試みる。事例研究の対象とする具体的問題行動は、いじめ、不登校、非行等である。生徒指導、進路指導、教育相談等におけるアセスメントや教育的指導・心理的援助の方法等に関する知識・技能の習得を目指したい。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回)</p> <p>(67 信原孝司／15回)</p> <p>子どもの問題行動について、臨床心理学的視点から検討する。</p> <p>(23 山内孔／15回)</p> <p>これまでの教育委員会や校長経験を通して、生徒指導の実践の視点から検討する。</p>	共同
コース別選択科目	教育実践開発コース	生徒指導と特別活動の実践研究	<p>いじめ・不登校、学級崩壊や非行の低年齢化など、生徒指導に関する問題が指摘される中、生徒指導や特別活動の一層の充実が求められている。そこで、本講座においては、第1ステージでは生徒指導を、また、第2ステージでは特別活動を取り上げ、それぞれの基礎理論を確認した上で、様々な事例をもとに、ディスカッションやワークショップ等を行うことを通して、実践的に生徒指導や特別活動に資する資質能力の開発を行う。</p> <p>なお、本科目では、以下の3点を到達目標として設定する。すなわち、(1)生徒指導及び特別活動の理論に基づき、実践的に事例を考察することができる。(2)事例を通じたディスカッションを通して、同僚性を高めるコミュニケーションスキルを高めることができる。(3)生徒指導及び特別活動を効果的に展開する上でのポイントを説明することができる。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回)</p> <p>(22 城戸茂／15回)</p> <p>生徒指導の理論と実践の視点から検討する。</p> <p>(30 藤原一弘／15回)</p> <p>特別活動の理論と実践の視点から検討する。</p>	共同
コース別選択科目	教育実践開発コース	進路指導の実践研究	<p>進路指導の実践研究</p> <p>本科目は、進路指導およびキャリア教育の意義と関連する諸理論を踏まえ、進路指導およびキャリア教育の実践的指導力を高めるための演習を行うものである。本科目は大きく3部からなる。第1部（尾川担当）では、進路指導・キャリア教育の意義について、政策動向と理論の学習を中心に行い、現代社会の特質をふまえた進路指導・キャリア教育の実践構想を行う。</p> <p>第2部（城戸担当）では、義務教育段階におけるキャリア教育の効果的な実践の在り方について、また、高等学校段階におけるキャリア教育の効果的な実践の在り方について学ぶ。最終回にまとめのプレゼンテーションを行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(4 尾川満宏／6回)</p> <p>進路指導・キャリア教育の理論的視点から検討する。</p> <p>(22 城戸茂／6回)</p> <p>進路指導・キャリア教育の理論的・実践的視点から検討する。</p> <p>(4 尾川満宏・22 城戸茂／3回) (共同)</p> <p>ガイダンス及びプレゼンテーション運営を共同方式で実施する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

コース別選択科目	教育実践開発コース	デジタル教材開発とその利用方法	<p>新しい教育観に基づいて、教育の現状の課題を理解し、教育ICTのひとつであるe-learningについて学ぶ。授業の目標は、「e-learningを利用したデジタル教材の作成ができる。」「e-learningを利用するためのシステム構築ができる。」としている。e-learningを取り入れた授業実践から特徴や有用性について理解する。次に、これまでの教育実践の経験から教材を構想する。次に、デジタル教材の作成とそれを利用するためのシステムの構築について演習を行う。そして、作成したデジタル教材を利用した模擬授業と授業評価を行い、教材を評価する。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式/全15回)</p> <p>(49 森慎之助/15回) e-learningを利用するためのシステム構築の視点から検討を行う。 (18 大西義浩/15回) e-learningを利用したデジタル教材の作成の視点から検討を行う。</p>	共同
コース別選択科目	教育実践開発コース	ソフトウェアを活用した校務支援	<p>教員の校務処理や学習指導の遂行に必要なICTの活用方法について、表計算ソフトウェア(Excel)とデータベースソフトウェア(Access)の基本的な考え方と操作を学ぶ。授業の目標は、「表計算ソフトウェアとデータベースソフトウェアの基本的な操作ができる。」「ソフトウェアを活用した教材開発ができる。」としている。それぞれのソフトウェアを利用した演習を行い、基本的な操作を習得する。そして、校務支援システムで利用するデータに基づき、教員がカスタマイズした様式やソフトウェアの使い方について演習を行い、作成した教材を評価する。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式/全15回)</p> <p>(38 玉井輝之/15回) 校務支援ソフトウェアを活用した学校での改善実践について検討する。 (49 森慎之助/15回) 校務支援のためのソフトウェアの活用方法についての検討を行う。</p>	共同
コース別選択科目	教育実践開発コース	プログラミングを活用した授業実践	<p>小学校でプログラミング教育が必修化されるなど、技術者養成目的ではない普通教育にプログラミングが取り入れられ始めている。この授業では、主に小学校でのプログラミング教育をテーマとして、プログラミングを活用した授業の構成方法を学ぶ。まず、プログラミングの基礎を習得し、小学校から高等学校における系統的なプログラミング教育の流れを踏まえた上で、各教科における実践事例を学ぶ。さらに、プログラミングを取り入れた授業の有用性を活かした授業計画を立案し模擬授業を行い、評価を行う。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式/全15回)</p> <p>(18 大西義浩/15回) プログラミング教育について、理論的視点からの検討を行う。 (38 玉井輝之/15回) プログラミング教育について、実践的視点からの検討を行う。</p>	共同
コース別選択科目	教育実践開発コース	ICTを活用した授業実践開発	<p>ICTの発展に伴い、教育現場にハード、ソフトを問わず様々なツールが導入されつつある。この授業では、各種ツールを実際に触れながら、それぞれの長所や短所を理解し、授業実践事例を学ぶ。さらに自分の専門分野に近い授業案を立案、教員研修の立案を行い、模擬授業を通じてICTの有用性を検証する。ICT教育の本質的なメリットを理解し、環境面、コスト面から利用可能で活用できるツールを見極め、主体的に教材教具の選定や授業開発、教員研修ができる能力の獲得を目指す。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式/全15回)</p> <p>(18 大西義浩/15回) ICTを活用した授業開発について理論的視点から検討する。 (38 玉井輝之/15回) ICTを活用した授業開発について実践的視点から検討する。</p>	共同

<p>コース別選択科目</p>	<p>教育実践開発コース</p>	<p>授業改善課題研究1</p>	<p>本科目の到達目標は、以下の3点である。すなわち、①学校・学年・学級での支援実践を通して、課題を発見し、その解決案を構想することができる。②指導チームで検討した解決策を、学校・学年・学級の実情に応じて実行することができる。③課題研究プレゼンテーションのテーマを設定することができる、である。</p> <p>前期連携校実習での実践支援経験を、報告・省察することによって、実践知を形成する。また、当該実習において発見した実践課題を共有し、改善策を指導チーム（連携校実習の実習アドバイザー＝連携協力校教員、研究者教員、実務家教員の3名で構成）において検討する。課題研究プレゼンテーションに向けての課題探索の機会として位置づけられる。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式/全15回)</p> <p>(3 橋本巖/15回) 感情論及び発達論の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(2 白松賢/15回) 学級経営論及び教職論の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(11 吉村直道/15回) 数学教育の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(67 信原孝司/15回) 教育相談論の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(16 向平和/15回) 理科教育の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(5 太田佳光/15回) 道徳教育論の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(18 大西義浩/15回) ICT教育論の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(31 檜木暢子/15回) 学校での実務経験を基にして、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、実践的側面から指導を行う。</p> <p>(33 井上洋一/15回) 学校での実務経験を基にして、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、実践的側面から指導を行う。</p> <p>(34 立松大祐/15回) 学校での実務経験を基にして、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、実践的側面から指導を行う。</p> <p>(30 藤原一弘/15回) 学校での実務経験を基にして、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、実践的側面から指導を行う。</p> <p>(38 玉井輝之/15回) 学校での実務経験を基にして、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、実践的側面から指導を行う。</p>	<p>共 同</p>
-----------------	------------------	------------------	---	------------

<p>コース別選択科目</p>	<p>教育実践開発コース</p>	<p>授業改善課題研究2</p>	<p>本科目の到達目標は、以下の4点である。すなわち、①学校での授業実践並びに実践支援を通して、課題を発見し、その解決案を構想することができる。②指導チームで検討した解決策を、学校・学年・学級の実情に応じて実行することができる。③課題研究プレゼンテーションのテーマを探究し、報告内容をまとめることができる。④1年間の学習及び実践の成果を、「実践研究報告書」にまとめ、課題研究プレゼンテーションにおいて豊かな表現力をもって報告することができる。【1年修了制度が適用される現職教員のみ】後期連携校実習での実践支援経験を、報告・省察することによって、実践知を形成する。また、当該実習において発見した実践課題を共有し、改善策を指導チーム（連携校実習の実習アドバイザー＝連携協力校教員、研究者教員、実務家教員の3名で構成）において検討する。学部卒業者は授業改善課題研究3の課題研究プレゼンテーションに向けての課題探索の機会として、現職教員は課題探究の機会として位置づけられる。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式/全15回)</p> <p>(3 橋本巖/15回) 感情論及び発達論の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(2 白松賢/15回) 学級経営論及び教職論の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(11 吉村直道/15回) 数学教育の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(67 信原孝司/15回) 教育相談論の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(16 向平和/15回) 理科教育の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(5 太田佳光/15回) 道徳教育論の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(18 大西義浩/15回) ICT教育論の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(31 檜木暢子/15回) 学校での実務経験を基にして、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、実践的側面から指導を行う。</p> <p>(33 井上洋一/15回) 学校での実務経験を基にして、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、実践的側面から指導を行う。</p> <p>(34 立松大祐/15回) 学校での実務経験を基にして、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、実践的側面から指導を行う。</p> <p>(30 藤原一弘/15回) 学校での実務経験を基にして、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、実践的側面から指導を行う。</p> <p>(38 玉井輝之/15回) 学校での実務経験を基にして、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、実践的側面から指導を行う。</p>	<p>共同</p>
-----------------	------------------	------------------	---	-----------

<p>コース別選択科目</p>	<p>教育実践開発コース</p>	<p>授業改善課題研究3</p>	<p>本科目の到達目標は、以下の2点である。すなわち、①2年間の学習及び実践の成果を、「実践研究報告書」にまとめることができる。②課題研究プレゼンテーションにおいて豊かな表現力をもって報告することができる、である。</p> <p>連携校実習での実践支援経験を、報告・省察することによって、実践知を形成する。また、当該実習において発見した実践課題を共有し、改善策を指導チーム（連携校実習の実習アドバイザー＝連携協力校教員、研究者教員、実務家教員の3名で構成）において検討する。指導チームとの協議は、大学及び勤務校において行われる。2年間の実践を実践研究報告書にまとめ、課題研究プレゼンテーションにおいて報告する。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式/全15回)</p> <p>(3 橋本巖/15回) 感情論及び発達論の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(2 白松賢/15回) 学級経営論及び教職論の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(11 吉村直道/15回) 数学教育の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(67 信原孝司/15回) 教育相談論の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(16 向平和/15回) 理科教育の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(5 太田佳光/15回) 道徳教育論の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(18 大西義浩/15回) ICT教育論の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(31 樫木暢子/15回) 学校での実務経験を基にして、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、実践的側面から指導を行う。</p> <p>(33 井上洋一/15回) 学校での実務経験を基にして、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、実践的側面から指導を行う。</p> <p>(34 立松大祐/15回) 学校での実務経験を基にして、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、実践的側面から指導を行う。</p> <p>(30 藤原一弘/15回) 学校での実務経験を基にして、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、実践的側面から指導を行う。</p> <p>(38 玉井輝之/15回) 学校での実務経験を基にして、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、実践的側面から指導を行う。</p>	<p>共同</p>
-----------------	------------------	------------------	---	-----------

<p>コース別選択科目</p>	<p>教科領域コース</p>	<p>教科指導力高度化演習 基礎</p>	<p>本科目は、担当者を中心としながら、教科専門と教科教育の教員の協力を得て、教育内容と教育方法の統合による、教材解釈、教材構成、授業構成、学習指導に関する研究的な教育の方法や技術を育成する。到達目標は、以下の3点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業実践を多面的視点から分析・考察する知見や能力を習得している。(知識・理解) 2. 教科に関する研究的な実践能力を習得している。(技能) 3. 観察や研究の成果を科学的方法によって整理し、それらを効果的に表現することができる。(思考・判断・表現) <p>教材解釈、教材構成、授業構成、学習指導立案においては、担当教員を中心としながら、教科専門と教科教育の教員の協力を得て、教育内容と教育方法の統合を踏まえた研究的な教科指導力を育成する。さらに、教育現場等の実践視察を複数回行い、教師の指導と児童生徒の学びの姿から教科指導や授業研究の手法を習得させ、研究的な実践能力の育成をはかる。</p> <p>また、教科をこえた意見交換を実施することで、教科の独自性と学習の共通性を理解するとともに、多様な教育の方法や技術のあり方を認識させる。</p> <p>最後に、教科領域コース報告会にて、当該教科等の取り組みを報告するとともに、他教科等の取り組みから、当該教科等の取り組みを省察させるとともに他教科等への改善意見を提示させるなどして、さらなる教育の方法や技術の高度化をはかる。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式/全15回)</p> <p>(9 篤原進/15回) 社会認識教育の研究成果に基づき、教科指導力の高度化のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(28 藤堂浩伸/15回) 学校での実務経験を基にして、国語教育の実践成果に基づき、教科指導力の高度化のために、実践的側面から指導を行う。</p> <p>(11 吉村直道/15回) 数学教育の研究成果に基づき、教科指導力の高度化のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(16 向平和/15回) 理科教育の研究成果に基づき、教科指導力の高度化のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(34 立松大祐/15回) 英語教育の研究成果に基づき、教科指導力の高度化のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(33 井上洋一/15回) 音楽教育の研究成果に基づき、教科指導力の高度化のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(36 秋山敏行/15回) 美術教育の研究成果に基づき、教科指導力の高度化のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(18 大西義浩/15回) ICT教育論の研究成果に基づき、教科指導力の高度化のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(15 藤田昌子/15回) 家庭科教育の研究成果に基づき、教科指導力の高度化のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(14 日野克博/15回) 保健体育科教育の研究成果に基づき、教科指導力の高度化のために、理論的側面から指導を行う。</p>	<p>共同</p>
-----------------	----------------	----------------------	---	-----------

<p>コース別選択科目</p>	<p>教科領域コース</p>	<p>教科指導力高度化演習 発展</p>	<p>本科目は、担当者を中心としながら、教科専門と教科教育の教員の協力を得て、教育内容と教育方法の統合による研究的な教育の方法及び技術の実践力を育成する。また、教育現場等のフィールドによる複数回の実践とその省察を通して、高度な実践的な教育の方法及び技術を用いる実践力を育成する。</p> <p>到達目標は、以下の3点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業実践を多面的視点から分析・考察する知見や能力を習得している。(知識・理解) 2. 教科に関する研究的な実践能力を習得している。(技能) 3. 観察や研究の成果を科学的方法によって整理し、それらを効果的に表現することができる。(思考・判断・表現) <p>学習指導の計画、実践、省察、改善においては、担当教員を中心としながら、教科専門と教科教育の教員の協力を得て、実践における教育の方法及び技術の手法を習得させ、研究的な実践能力の育成をはかる。</p> <p>最後に、教科領域コース成果報告会にて、当該教科等の取り組みを報告するとともに、他教科等の取り組みから、当該教科等の取り組みを省察させるとともに他教科等への改善意見を提示させるなどして、さらなる教育の方法及び技術の高度化をはかる。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回)</p> <p>(9 篤原進／15回) 社会認識教育の研究成果に基づき、教科指導力の高度化のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(28 藤堂浩伸／15回) 学校での実務経験を基にして、国語教育の実践成果に基づき、教科指導力の高度化のために、実践的側面から指導を行う。</p> <p>(11 吉村直道／15回) 数学教育の研究成果に基づき、教科指導力の高度化のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(16 向平和／15回) 理科教育の研究成果に基づき、教科指導力の高度化のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(34 立松大祐／15回) 英語教育の研究成果に基づき、教科指導力の高度化のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(33 井上洋一／15回) 音楽教育の研究成果に基づき、教科指導力の高度化のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(36 秋山敏行／15回) 美術教育の研究成果に基づき、教科指導力の高度化のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(18 大西義浩／15回) ICT教育論の研究成果に基づき、教科指導力の高度化のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(15 藤田昌子／15回) 家庭科教育の研究成果に基づき、教科指導力の高度化のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(14 日野克博／15回) 保健体育科教育の研究成果に基づき、教科指導力の高度化のために、理論的側面から指導を行う。</p>	<p>共同</p>
<p>コース別選択科目</p>	<p>教科領域コース</p>	<p>教材研究の基礎理論 (現代の国語)</p>	<p>国語の教師として活躍するために必要な教材研究能力を身につけ、さらにそれを深める。実際の国語の教材を用いながら、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育成するための教材研究の基礎理論と方法を学ぶ。「読むこと」だけに偏るのではなく、「話すこと・聞くこと」「書くこと」を身につけるための言語活動例や「読むこと」におけるアクティブ・ラーニングの導入の方法も視野に入れながら、国語の教材研究の充実を図る。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回)</p> <p>(54 中西淳／15回 44 佐藤栄作／15回 69 青木亮人／15回) 学習指導要領に基づき、国語における教材研究の基礎理論や「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を身につけるための言語活動の方法を考察する。</p>	<p>共同</p>

コース別選択科目	教科領域コース	<p>教材の開発と実践 (現代の国語)</p>	<p>国語の教師として活躍するために必要な教材研究能力を身につけ、さらにそれを深める。国語における「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育成するための教材の検討や実践の方法を学ぶ。「読むこと」だけに偏るのではなく、「話すこと・聞くこと」「書くこと」を身につけるための言語活動例や「読むこと」におけるアクティブ・ラーニングの導入の方法も視野に入れながら、国語の授業のあり方の考察を行う。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式/全15回)</p> <p>(54 中西淳/15回 44 佐藤栄作/15回 69 青木亮人/15回) 学習指導要領に基づき、国語における教材の検討方法を学び、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の育成を効果的に行う新たな言語活動を構想する。</p>	共同
コース別選択科目	教科領域コース	<p>教材研究の基礎理論 (言語文化)</p>	<p>国語の教師として活躍するために必要な教材研究能力を身につけ、さらにそれを深める。実際の国語の教材を用いながら、言葉の特徴や使い方、言語文化に関する事項を中心に、「知識及び技能」「学びに向かう力、人間性等」を育成するための教材研究の基礎理論と方法を学ぶ。とくに発達段階に応じた教材の提示のために必要な考え方や教材を深く読む方法、技能の向上を図るための方法などを学ぶ。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式/全15回)</p> <p>(54 中西淳/15回 8 小助川元太/15回 71 太田亨/15回) 学習指導要領に基づき、国語における教材研究の基礎理論や「知識及び技能」「学びに向かう力」を育成するための教材研究の方法を考察する。</p>	共同
コース別選択科目	教科領域コース	<p>教材の開発と実践 (言語文化)</p>	<p>国語の教師として活躍するために必要な教材研究能力を身につけ、さらにそれを深める。国語における言葉の特徴や使い方、言語文化に関する事項を中心に、「知識及び技能」「学びに向かう力、人間性等」を育成するための教材の検討や実践の方法を学ぶ。とくに素材の特性を生かした新たな教材の検討や、発達段階に応じた知識及び技能の向上を図るための効果的な実践方法を学ぶ。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式/全15回)</p> <p>(82 三浦和尚/15回 8 小助川元太/15回 71 太田亨/15回) 学習指導要領に基づき、国語における教材の検討の方法や「知識及び技能」「学びに向かう力」を育成するための新たな授業を構想する。</p>	共同
コース別選択科目	教科領域コース	<p>教材研究の基礎理論 (書写書道)</p>	<p>この講義では、毛筆の学習を通じ、国語科書写・芸術科書道の毛筆学習についての教材分析、授業分析、教材開発、授業構想を中心に学ぶ。また、教材分析や教材開発を念頭に置いた毛筆技術の向上を行う。書写の毛筆に関する内容は、過去には、学習指導要領内の「表現事項」、「言語事項」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に分類されて授業構成を行ってきたが、平成30年度に告示された学習指導要領では「我が国の言語文化」に分類され、その扱いを再検討する必要性が生じている。また、高等学校学習指導要領の中にも中学校書写との関連性に関する内容が記載されるようになった。更に、高等学校芸術科書道では、書道の幅広い活動を通して、書の伝統と文化を学習している。書写書道教育の優れた授業実践や理論体系を学び、毛筆に関する高い技能を身につけ、小学校から高等学校までの一貫した授業構想等の高度な授業改善の力を身につける。</p>	

コース別選択科目	教科領域コース	教材の開発と実践 (書写書道)	この講義では、主として硬筆及び板書の学習を通じ、国語科書写・芸術科書道の硬筆学習についての教材分析、授業分析、教材開発、授業構想を中心に学ぶ。また、授業改善に活かすことが出来る硬筆や板書の書写力の能力を向上させ、かつ、「実践的な書写書道の学習」とはどのようにあるべきなのか、また、「日常生活に役立つ書写書道の活動」とはどのようなものがあるのかを考える。国語科書写での学習は、硬筆の文字を正確かつ整った字形で書く能力を付けることが重要な目的の一つであり、小学校・中学校の学習を活かしながら、高等学校の学習につなげる必要がある。また、教師に求められる必要なスキルとしては板書の能力向上も欠かせない。書写書道教育の優れた授業実践や理論体系を学び、硬筆や板書に関する高い技能を身につけ、高度な技術力に裏打ちされた教材開発・授業構想を行い、高度な授業改善の力を身につける。	
コース別選択科目	教科領域コース	教材研究の基礎理論 (歴史)	<p>本授業は、学習指導要領や教科書の内容、そして歴史学の研究成果を踏まえて、歴史領域の教育内容を設定することを目的とする。具体的には、学習指導要領や教科書に明記されている内容を、歴史学の基本的な見方や基礎概念に関する理解に基づいて分析する。そしてこうした活動を通じて、歴史の授業を開発するための教材化の視点を習得していく。学習指導要領や教科書内容の分析では、受講生による報告を予定している。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(53 川岡勉 2回) 日本史の研究成果に基づき、歴史学と歴史教育の接合について、理論と実践の観点から考察を行う。</p> <p>(68 森貴子 2回) 西洋史の研究成果に基づき、歴史学と歴史教育の接合について、理論と実践の観点から考察を行う。</p> <p>(37 井上昌善 2回) 社会科教育に関する授業実践・研究の成果に基づき、歴史学と歴史教育の接合について、理論と実践の観点から考察を行う。</p> <p>(53 川岡勉・68 森貴子・37 井上昌善 9回) (共同) 受講生による報告に関して、日本史、西洋史、社会科教育の観点から議論し、考察を深める。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
コース別選択科目	教科領域コース	教材の開発と実践 (歴史)	<p>本授業は、社会的事象の歴史的な見方・考え方の育成を目的とした「歴史」の教材を開発し実践していくことを目的とする。前半では、担当教員3名による授業を通して、歴史教育の目標を達成するための教材開発の視点を習得を目指す。その際には、史資料の効果的な活用法について歴史学の研究成果に基づいて考察する。後半では、受講者自身が、これまでの学習内容を踏まえて、授業開発・実践を行う。このように本授業は、演習形式を取り入れて展開される。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(53 川岡勉 3回) 日本史の研究成果に基づき、日本史教育における教材開発の事例を提案し、その可能性と課題を考察する。</p> <p>(68 森貴子 3回) 西洋史の研究成果に基づき、世界史教育における教材開発の事例を提案し、その可能性と課題を考察する。</p> <p>(37 井上昌善 3回) 社会科教育に関する授業開発・研究の成果に基づき、中学校社会科歴史的分野における教材開発の事例を提案し、その可能性と課題を考察する。</p> <p>(53 川岡勉・68 森貴子・37 井上昌善 6回) (共同) 受講生による教材開発、授業実践に関して、日本史、西洋史、社会科教育の観点から議論し、考察を深める。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

<p>コース別選択科目</p>	<p>教科領域コース</p>	<p>教材研究の基礎理論 (地理)</p>	<p>本授業は、中学校社会科・高等学校地理歴史科を主たる対象とし、それらに関する基本的な見方や概念の特質を踏まえて、社会認識教育における「地理」の教育内容を、学問的背景を踏まえて設定し、多様な研究成果を教育内容に引きつけて解釈できることである。到達目標は、次の3点である。</p> <p>(1) 「地理」の学習内容をその背景となる地理学を基に理解し、児童・生徒が理解しにくい概念を分かりやすく説明できるようにする。</p> <p>(2) 「地理」に関する基本的な見方や概念の特質と学問的背景を踏まえて、社会認識教育における地理の教育内容を設定し、社会認識を形成できる授業実践を構想することができる。</p> <p>(3) 移り行く社会認識の中で常に現代的な課題の論点を発見することができる。</p> <p>本授業は、社会認識の形成を目的とする教育内容のうち、「地理」の内容について、学問的背景を踏まえながら考究していくことを目的とする。具体的には、地理学の基本的な見方や基礎概念に関する理解に基づいて教育内容を分析し、その記述の学問的な背景や基盤を明らかにすることで、「地理」の授業を構造的に捉える視点を習得していく。また、社会生活を営む上で、いかに社会認識の形成が必要なのかについて理解を深める。本授業は演習形式を取り入れて展開される。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(55 張貴民 4回) 人文地理の研究成果に基づき、地理学と地理教育の接合について、理論と実践の観点から考察を行う。</p> <p>(70 川瀬久美子 4回) 自然地理の研究成果に基づき、地理学と地理教育の接合について、理論と実践の観点から考察を行う。</p> <p>(55 張貴民・70 川瀬久美子 4回) 共同 人文地理と自然地理の研究成果に基づき、地誌と地理教育の接合について、理論と実践の観点から考察を行う。</p> <p>(55 張貴民・70 川瀬久美子・37 井上昌善 3回) 受講生による報告に関して、人文地理、自然地理、地誌、社会科教育の観点から議論し、「地理」の意義と役割について考察を深める。</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p>
-----------------	----------------	---------------------------	---	------------------------

<p>コース別選択科目</p>	<p>教科領域コース</p>	<p>教材の開発と実践 (地理)</p>	<p>本授業は、中学校社会科・高等学校地理歴史科を主たる対象として、それらの基本的な見方や概念の特質を踏まえて、社会認識の形成を目的とした「地理」の教材を開発し実践することができるものである。本授業は、社会認識の形成を目的とした「地理」の教材を開発し実践していくことを目的とする。人文地理における教材においては、立地、分布、産業構造などめぐり、学問による裏づけが必要となる。自然地理における教材は、地形、形成、地質などめぐり、学問による裏づけが必要となる。地誌における教材は、地域的特殊性と一般性などをめぐり、学問による裏づけが必要となる。本授業では、「地理」における教材の特質を踏まえ、その特性を生かした教材の提案・開発・実践化を行う。本授業は演習形式を取り入れて展開される。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(55 張貴民 3回) 人文地理の研究成果に基づき、地理教育における教材開発の事例を提案し、その可能性と課題を考察する。</p> <p>(70 川瀬久美子 3回) 自然地理の研究成果に基づき、地理教育における教材開発の事例を提案し、その可能性と課題を考察する。</p> <p>(55 張貴民・70 川瀬久美子 2回) (共同) 人文地理と自然地理の研究成果に基づき、地誌における教材開発の事例を提案し、その可能性と課題を考察する。</p> <p>(55 張貴民・37 井上昌善 2回) (共同) 受講生による教材開発、授業実践に関して、人文地理、社会科教育の観点から議論し、考察を深める。</p> <p>(70 川瀬久美子・37 井上昌善 2回) (共同) 受講生による教材開発、授業実践に関して、自然地理、社会科教育の観点から議論し、考察を深める。</p> <p>(55 張貴民・70 川瀬久美子・37 井上昌善 3回) (共同) 受講生による教材開発、授業実践に関して、地誌、社会科教育の観点から議論し、考察を深める。</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p>
-----------------	----------------	--------------------------	--	------------------------

<p>コース別選択科目</p>	<p>教科領域コース</p>	<p>教材研究の基礎理論 (公民)</p>	<p>本授業は、中学校社会科・高等学校公民科を主たる対象とし、それらに関する基本的な見方や概念の特質を踏まえて、社会認識教育における「公民」の教育内容を、学問的背景を踏まえて設定し、多様な研究成果を教育内容に引きつけて解釈できるものである。到達目標は次の3点である。</p> <p>(1) 「公民」の学習内容をその背景となる社会諸科学を基に理解し、児童・生徒が理解しにくい概念を分かりやすく説明できるようにする。</p> <p>(2) 「公民」に関する基本的な見方や概念の特質と学問的背景を踏まえて、社会認識教育における公民の教育内容を設定し、社会認識を形成できる授業実践を構想することができる。</p> <p>(3) 移り行く社会認識の中で常に現代的な課題の論点を発見することができる。</p> <p>本授業は、社会認識の形成を目的とする教育内容のうち、「公民」の内容について、学問的背景を踏まえながら考究していくことを目的とする。具体的には、法学、政治学、経済学、社会学、倫理等の基本的な見方や基礎概念に関する理解に基づいて教育内容を分析し、その記述の学問的な背景や基盤を明らかにすることで、「公民」の授業を構造的に捉える視点を習得していく。また、社会生活を営む上で、いかに社会認識の形成が必要なのかについて理解を深める。本授業は演習形式を取り入れて展開される。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(74 中曾久雄 3回) 法学・政治学の研究成果に基づき、法学と公民教育の接合について、理論と実践の観点から考察を行う。</p> <p>(48 松野尾裕 2回) 経済学の研究成果に基づき、経済学と公民教育の接合について、理論と実践の観点から考察を行う。</p> <p>(62 魁生由美子 2回) 社会学の研究成果に基づき、社会学と公民教育の接合について、理論と実践の観点から考察を行う。</p> <p>(9 鴛原進 2回) グローバル教育の研究成果に基づき、グローバル時代の倫理について、理論と実践の観点から考察を行う。</p> <p>(74 中曾久雄・9 鴛原進 2回) (共同) 法学・政治学と社会科教育の研究成果に基づき、法学・政治学と公民教育の接合について、理論と実践の観点から考察を行う。</p> <p>(48 松野尾裕・9 鴛原進 1回) (共同) 経済学と社会科教育の研究成果に基づき、経済学と公民教育の接合について、理論と実践の観点から考察を行う。</p> <p>(62 魁生由美子・9 鴛原進 1回) (共同) 社会学と社会科教育の研究成果に基づき、社会学と公民教育の接合について、理論と実践の観点から考察を行う。</p> <p>(74 中曾久雄・48 松野尾裕・62 魁生由美子・9 鴛原進 2回) 受講生による報告に関して、法学・政治学、経済学、社会学、社会科教育の観点から議論し、「公民」の意義と役割について考察を深める。</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p>
-----------------	----------------	---------------------------	--	------------------------

<p>コース別選択科目</p>	<p>教科領域コース</p>	<p>教材の開発と実践 (公民)</p>	<p>本授業は、中学校社会科・高等学校公民科を主たる対象として、それらの基本的な見方や概念の特質を踏まえて、社会認識の形成を目的とした「公民」の教材を開発し実践することができるものである。</p> <p>本授業は、社会認識の形成を目的とした「公民」の教材を開発し実践していくことを目的とする。法律・政治における教材においては、法解釈の方向性・妥当性や政治制度のあり方をめぐり、学問による裏づけが前提・必要となる。経済における教材は、相互扶助、社会保障のあり方をめぐり、学問による裏づけが前提となる。現代社会における教材は、福祉社会、少子高齢化をめぐり、学問による裏づけが前提となる。倫理における教材は、価値の多元性について深く理解することが前提となる。本授業では、「公民」における教材の特質を踏まえ、その特性を生かした教材の提案・開発・実践化を行う。本授業は演習形式を取り入れて展開される。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(74 中曾久雄 2回) 法学・政治学の研究成果に基づき、公民教育における教材開発の事例を提案し、その可能性と課題を考察する。</p> <p>(48 松野尾裕 2回) 経済学の研究成果に基づき、公民教育における教材開発の事例を提案し、その可能性と課題を考察する。</p> <p>(62 魁生由美子 2回) 社会学の研究成果に基づき、公民教育における教材開発の事例を提案し、その可能性と課題を考察する。</p> <p>(9 駕原進 1回) グローバル教育の研究成果に基づき、公民教育における教材開発の事例を提案し、その可能性と課題を考察する。</p> <p>(74 中曾久雄・9 駕原進 2回) (共同) 受講生による教材開発、授業実践に関して、法学・政治学、社会科教育の観点から議論し、考察を深める。</p> <p>(48 松野尾裕・9 駕原進 2回) (共同) 受講生による教材開発、授業実践に関して、経済学、社会科教育の観点から議論し、考察を深める。</p> <p>(62 魁生由美子・9 駕原進 2回) (共同) 受講生による教材開発、授業実践に関して、社会学、社会科教育の観点から議論し、考察を深める。</p> <p>(74 中曾久雄・48 松野尾裕・62 魁生由美子・9 駕原進 2回) (共同) 受講生による教材開発、授業実践に関して、教材構成、教材開発、実践について議論し、考察を深める。</p> <p>受講生による教材開発、授業実践に関して、地誌、社会科教育の観点から議論し、考察を深める。</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p>
<p>コース別選択科目</p>	<p>教科領域コース</p>	<p>教材研究の基礎理論 (英語学・言語科学)</p>	<p>(1) 英語学および言語(科)学の基礎的な内容を理解し、外国語／英語教育のあり方についての考察を深め、受講者自身が行う授業実践への関連付けを行う。</p> <p>(2) 音声学／音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論といった英語学および言語(科)学の主要な下位分野の研究成果を踏まえ、発音指導、語彙指導、文法指導に関わる内容を中心に、検定教科書や他の英語教材について掘り下げた分析・考察を行う。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回)</p> <p>(47 秋山正宏／15回) 英語学の研究成果から、発音指導、語彙指導、文法指導に関わる内容を中心に、検定教科書や他の英語教材について指導する。</p> <p>(39 ボグダン ディビッド／15回) 言語(科)学の研究成果から、発音指導、語彙指導、文法指導に関わる内容を中心に、検定教科書や他の英語教材について指導する。</p>	<p>共同</p>

コース別選択科目	教科領域コース	<p>教材の開発と実践 (英語学・言語科学)</p>	<p>(1) 中学校および高等学校における英語教育において重要となる英文法事項および英語構文について、英語学・言語(科)学の成果を踏まえて、その規則性を学ぶ。 (2) (1)を踏まえて、授業で用いる英語教科書、補助教材、受講者自身が自作する教材、受講者自身が行う文法指導、教示内容について、様々な観点から分析する。 (3) (1)、(2)に基づいて、新規性、有用性のある教材-特にICTを用いた教材-を考案し、その意義について専門的に論ずることが出来るようになる。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式/全15回)</p> <p>(47 秋山正宏/15回) 英語学の研究成果から、新規性、有用性のある教材-特にICTを用いた教材-を考案し、その意義について指導する。 (39 ボグダン デイビッド/15回) 言語(科)学の研究成果から、新規性、有用性のある教材-特にICTを用いた教材-を考案し、その意義について指導する。</p>	共同
コース別選択科目	教科領域コース	<p>教材研究の基礎理論 (第二言語習得)</p>	<p>英語教育学の関連分野である第二言語習得研究の成果について学び、その理論的基盤に基づき、英語教材のあり方について多面的に考察する。第二言語習得研究の対象は多岐にわたるが、その中でも第二言語知識、第二言語処理、ティーチャー・トーク、個人差要因(性格や適性)、第二言語学習動機付け、言語使用と言語発達など、英語教育に特に関連のあるテーマについて幅広く学ぶ。また、第二言語習得研究と英語教材の関係についても様々な角度から検討し、効果的な英語教材について考察する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(10 池野修/7回) 英語教育の研究成果から、第二言語習得研究と英語教材の関係についても様々な角度から検討し、効果的な英語教材について指導する。 (79 中山晃/6回) 言語(科)学の研究成果から、第二言語習得研究と英語教材の関係についても様々な角度から検討し、効果的な英語教材について指導する。 (10 池野修・79 中山晃/2回) (共同) ガイダンス及び全体のまとめを行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
コース別選択科目	教科領域コース	<p>教材の開発と実践 (第二言語習得)</p>	<p>第二言語習得研究の成果とも関連づけながら、語彙指導のための教材、音声指導のための教材、リーディング指導のための教材、国際理解教育とグループ教育の視点を生かした教材、特別支援の視点を生かした教材まで幅広く学ぶ。第二言語習得研究の成果を援用して、現在使われている英語教材の意味づけを行ったり、批判的検討を加えたりすることにより、受講生の英語教材に関する実践知を充実させる。また、第二言語習得を促すためのオリジナル教材を考案し、その意義や活用方法について専門的に解説できるようにする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(10 池野修/7回) 英語教育の研究成果から、第二言語習得研究と英語教材の関係についても様々な角度から検討し、効果的な英語教材について指導する。 (79 中山晃/6回) 言語(科)学の研究成果から、第二言語習得研究と英語教材の関係についても様々な角度から検討し、効果的な英語教材について指導する。 (10 池野修・79 中山晃/2回) (共同) ガイダンス及び全体のまとめを行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

コース別選択科目	教科領域コース	教材研究の基礎理論 (代数)	<p>整数の性質や合同式の性質を復習し、整数の剰余環における一次方程式を解く。平方剰余の相互法則を理解し、素数を法とする整数の剰余環上の二次方程式の性質を知る。連分数の性質を用いて、円周率が無理数であることを証明する。応用例としてISBNやRSA暗号について解説し、数論が実社会でどのように利用されているか紹介する。物の対称性として群を取り扱い、様々な図形の対称性を記述する。有限の対称の群として、置換群や二面体群について学び、その構造や性質を知る。無限の対称の群として、基本的なリー群について学び、その構造や性質を知る。応用例として分子模型や生物、建造物等の対称性を紹介し、群の考え方の定着を図る。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回)</p> <p>(12 安部利之／15回)</p> <p>代数学について内容的視点から検討する (11 吉村直道／15回)</p> <p>教科教育学的視点から検討する</p>	共同
コース別選択科目	教科領域コース	教材の開発と実践 (代数)	<p>群論の復習を行ったのちその応用例を通し群の考え方の定着を図る。特に群論を用いた様々な分野(組合せ論、幾何学)について紹介し、それらを用いて課題研究で用いる教材の研究、開発及び省察を行う。教材研究では、学年や単元の内容を復習し群論に関連する部分や応用できる部分について調査を行うことで、課題研究を行う適切な学年や時期にも配慮し、効果的な課題を作成する。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回)</p> <p>(12 安部利之／15回)</p> <p>代数学について内容的視点から検討する (11 吉村直道／15回)</p> <p>教科教育学的視点から検討する</p>	共同
コース別選択科目	教科領域コース	教材研究の基礎理論 (幾何)	<p>幾何学について、特に、平面幾何と空間幾何、の2分野にテーマをあて、その基礎理論や応用について講義する。高等学校までに学習する平面図形、空間図形の背景にあるユークリッド幾何学を厳密に理解することに努め、幾何学の問題の意味を読み取れることを心がける。具体的には、幾何学の公理的な構造を理解し、定理の証明が公理に基づいた正しい推論によって進められることを理解する。講義ではよく演習を交え、手を動かしながら教材として考え直す。</p> <p>また、展開図や立体の切り取りなどユークリッド幾何学ではあまり発展していなかったが、近年ではよく知られている結果が多数ある。新しい考え方にも触れ、幾何教材について学ぶ。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回)</p> <p>(61 河村泰之／15回)</p> <p>幾何学について内容的視点から検討する (11 吉村直道／15回)</p> <p>教科教育学的視点から検討する</p>	共同
コース別選択科目	教科領域コース	教材の開発と実践 (幾何)	<p>高等学校までで扱う幾何分野で、具体的な授業に関して学ぶ。その際、伝統的な道具の良さと新しいツールの良さを比べる。この授業では、新しいツールに比重を置き、これからの幾何教育について考える機会を多く持つ。ICTを用いること、プログラミングの考え方を導入すること、コンパスと定木以外に折りや切り取りという演算を許すこと、CGを用いることなど、いくつかの候補の中からトピックを選んで授業を進める。</p> <p>最後に、実践力を高めるために模擬授業の課題を与える。授業を作る過程で教材開発の力を育む。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回)</p> <p>(61 河村泰之／15回)</p> <p>幾何学について内容的視点から検討する (11 吉村直道／15回)</p> <p>教科教育学的視点から検討する</p>	共同

コース別選択科目	教科領域コース	<p>教材研究の基礎理論 (解析)</p>	<p>本授業科目では、教材開発の基盤となる数学的専門性の向上を図るために、数学（主に解析学領域）について、教育内容の理解を深めることを目的としている。現在中学校・高等学校の生徒が学んでいる数学がどのような数学的背景のもとに創りだされてきたのかを再確認し、小学校・中学校・高等学校の学習指導要領（主に解析学領域）が目指すものについて理解する。また、テーマを設定し、実践授業を想定した教材研究を行い、提案教材を発表する。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式/全15回)</p> <p>(40 観音幸雄/15回) 解析学について内容的視点から検討する (11 吉村直道/15回) 教科教育学的視点から検討する</p>	共同
コース別選択科目	教科領域コース	<p>教材の開発と実践 (解析)</p>	<p>本授業科目では、数学（主に解析学領域）に関わる教育内容をテーマに設定し、その専門的背景を理解・分析するとともに、小学校・中学校・高等学校の学習指導要領および教科書が目指すものについて検討・理解する。それを受けて、具体的なテーマに対して、模擬授業を想定した教材や授業方法について協働で検討し、実際に模擬授業を実施し、その授業に対する検証を行う。今後のよりよい授業づくりに、授業改善のためのPDCAサイクルを生かすことができるようにする。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式/全15回)</p> <p>(40 観音幸雄/15回) 解析学について内容的視点から検討する (11 吉村直道/15回) 教科教育学的視点から検討する</p>	共同
コース別選択科目	教科領域コース	<p>教材研究の基礎理論 (応用数学)</p>	<p>計算機の発達や大規模データの可読性向上により、様々な分野での数学の応用が進んでいる。本講義では、特に数学の応用例について、代数・幾何・解析・統計分野からいくつかの話題を選択して紹介する。また、実際にそれらを計算機などを援用して解析する。これらの実験的考察を通して理論的背景が応用に対して果たす役割を再考し、中学校・高等学校で扱われる話題がどのように社会に影響を与えているか、それをどのように指導していくかを考えていく。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式/全15回)</p> <p>(63 原本博史/15回) 統計学について内容的視点から検討する (11 吉村直道/15回) 教科教育学的視点から検討する</p>	共同
コース別選択科目	教科領域コース	<p>教材研究の開発と実践 (応用数学)</p>	<p>教材研究の基礎理論（応用数学）では簡単な教材作成・教材研究にとどめた内容をより深く発展させ理解することを目的とする。特にプログラミング言語を用いて、より原始的な部分から応用数学に関わる知識・技能を習得することを目標とする。各回では、最初に簡単な例の紹介とその計算機上での実装を行い、理論と実践の両面から具体的な問題を取り扱う。また課題として、授業での利用を念頭において教材開発を行い、口頭発表と質疑応答を通して修正や発展を目指す。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式/全15回)</p> <p>(63 原本博史/15回) 統計学について内容的視点から検討する (11 吉村直道/15回) 教科教育学的視点から検討する</p>	共同
コース別選択科目	教科領域コース	<p>教材研究の基礎理論 (物理)</p>	<p>本授業のテーマは、学校教育課程で扱う物理分野の学習内容に関する基礎理論を理解し、説明の中に潜む因果スキーマや児童・生徒のもつ素朴概念・誤概念を考慮し、物理概念育成を図るための教材や授業法について探究していくことである。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式/全15回)</p> <p>(65 細田宏樹/15回) 力学分野を内容的視点から検討する。 (13 隅田学/15回) 教科教育学的視点から検討する。</p>	共同

コース別選択科目	教科領域コース	教材の開発と実践 (物理)	物理学分野における教材開発の理論を講義し、安全で効果的な物理教材の開発を行う。さらに開発したこれらの物理教材を用いた効果的な授業法についての演習を行うことで、物理学分野における教材開発とそれらを用いた授業実践力を身につける。 (ティーム・ティーチング方式/全15回) (17 中本剛/15回) 電磁気学分野を内容学的視点から検討する。 (13 隅田学/15回) 教科教育学的視点から検討する	共同
コース別選択科目	教科領域コース	教材研究の基礎理論 (化学)	教材の探究で習得した知識を活かし、粒子領域の新たな教材の開発を行う。開発した教材を用いた実践を通して、教材の評価、改良の方法を習得し、粒子領域における教材開発法を習得する。 (ティーム・ティーチング方式/全15回) (42 熊谷隆至/15回) 有機化合物分野を内容学的視点から検討する。 (13 隅田学/15回) 教科教育学的視点から検討する。	共同
コース別選択科目	教科領域コース	教材の開発と実践 (化学)	講義では、安価で簡易であり、かつ生徒が主体的・対話的に深く学ぶ教材を設計・開発する。具体的には、金属の結晶構造のように、生徒が科学理論の理解ではなく、個別的な事実の確認に陥りやすい単元を教科書や入試傾向分析によって明確にし、生徒自身が探究的に学習を進め、話し合いや発表を通じて対話的に理解を深める教材・教育法の開発を目指す。また開発した教材の実践結果について、ICTを用いて分析する。以上を通じて、本講義では、生徒の学びを深めるための教育手法を構築する力を養う。 (ティーム・ティーチング方式/全15回) (72 大橋淳史/15回) 無機化合物分野を内容学的視点から検討する。 (13 隅田学/15回) 教科教育学的視点から検討する。	共同
コース別選択科目	教科領域コース	教材研究の基礎理論 (生物)	小学校及び中学校理科、並びに高等学校生物における「生命」を柱とした内容の構成について理解する。さらに、各学年で扱っている実験や観察等の教材について、その基礎的専門的知識を習得する。生命領域では、生き物自体を取り扱う実物教育はもちろん重視されるが、観察が困難な生命現象についても効果的なモデル教材の開発方法も概説する。 (ティーム・ティーチング方式/全15回) (75 中村依子/15回) 生物的領域について内容学的視点から検討する。 (16 向平和/15回) 教科教育学的視点から検討する。	共同
コース別選択科目	教科領域コース	教材の開発と実践 (生物)	小学校及び中学校理科、並びに高等学校生物における「生命」を柱とした内容の構成について理解する。さらに、各学年で扱っている実験や観察等の教材について、その基礎的専門的知識を習得する。生命領域では、生き物自体を取り扱う実物教育はもちろん重視されるが、観察が困難な生命現象についても効果的なモデル教材の開発方法も概説する。 (ティーム・ティーチング方式/全15回) (75 中村依子/15回) 生物的領域について内容学的視点から検討する。 (16 向平和/15回) 教科教育学的視点から検討する。	共同

コース別選択科目	教科領域コース	教材研究の基礎理論 (地学)	<p>小学校及び中学校理科、並びに高等学校地学における「地球」を柱とした内容の構成について理解する。さらに、各学年で扱っている実験や観察等の教材について、その基礎的専門的知識を習得する。地球領域では、地層や岩石など地域固有性の理解や、夜間での活動を強いられやすい天体に関する内容などを含むため、教育現場では特に子どもたちに教えるににくい内容が多い分野といわれている。本授業では、これら教材の取扱いに関しても議論する。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式/全15回)</p> <p>(45 佐野栄/15回) 地学的領域について内容学的視点から検討する。 (16 向平和/15回) 教科教育学的視点から検討する。</p>	共同
コース別選択科目	教科領域コース	教材の開発と実践 (地学)	<p>学習指導要領(理科編)を参照しながら、小学校及び中学校理科、並びに高等学校地学における「地球」を柱とした内容に関する教材の開発を行う。さらに、開発した教材を用いて、教育現場等における実践を行い、教材の有用性について考察を行う。特に「地球」領域で用いる教材は、しばしば地域性を伴うことが多い。地域の地質や岩石など、地域素材を積極的に活用した教材の開発・実践に取り組む。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式/全15回)</p> <p>(45 佐野栄/15回) 地学的領域について内容学的視点から検討する。 (16 向平和/15回) 教科教育学的視点から検討する。</p>	共同
教科領域コース	発展科目	教材研究の基礎理論 (電気)	<p>新しい教育観に基づいて、教育の現状の課題を理解し、技術教育の電気電子分野の指導において、指導内容に適した教材について学習する。授業の目標は、「学習目標に対応した教材の選定ができる。」「教材を利用した学習指導計画が立てられる。」としている。電気電子分野の教材について、現在使用されているものを調査する。学習目標、授業時数、費用等の項目に整理し動向を把握する。そして、電気電子分野における教材について、学習指導要領の各視点から検討を行いながら、教材の構想を作り上げる。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式/全15回)</p> <p>(18 大西義浩/15回) 電気領域を内容学的視点から検討する。 (38 玉井輝之/15回) 教科教育学的視点から検討する。</p>	共同
教科領域コース	発展科目	教材の開発と実践 (電気)	<p>新しい教育観に基づいて、教育の現状の課題を理解し、技術教育における電気電子分野の指導において使用する教材開発を行う。授業の目標は、「学習目標に合わせて、教材の構想、設計、製作ができる。」「製作した教材を用いた指導計画、評価計画を作成できる。」としている。教材研究の基礎理論(電気)の授業で学習した内容を踏まえ、電気電子分野の教材について、構想、設計、製作を行う。また、教材を利用した指導に必要なワークシート、指導計画、評価計画などの作成を行う。技術教育では学習指導要領が改訂される度に指導する題材が新たに加わる傾向がある。今後新たな題材を授業で実施する際にも、教材開発ができるように資質や能力の向上を目指す。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式/全15回)</p> <p>(18 大西義浩/15回) 電気領域を内容学的視点から検討する。 (38 玉井輝之/15回) 教科教育学的視点から検討する。</p>	共同

教科領域コース	発展科目	教材研究の基礎理論 (機械)	<p>新しい教育観に基づいて、教育の現状の課題を理解し、技術教育の機械分野の指導において、指導内容に適した教材について学習する。各回のテーマに沿って資料を準備し、ディスカッションやレポートによる意見交換を通して、教材開発に必要な知識を獲得する。また、該当する校種の授業で使用する教材を構想し、授業計画や評価計画を立案する。授業の目標は、「学習目標に対応した教材の選定ができる。」「教材を利用した学習指導計画が立てられる。」としている。教材について理解を深めるために、教材に関する情報の収集や整理だけでなく、既存の教材の製作などの演習も実施する。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回)</p> <p>(38 玉井輝之／15回) 機械領域を内容的視点から検討する。 (49 森慎之助／15回) 教科教育学的視点から検討する。</p>	共同
教科領域コース	発展科目	教材の開発と実践 (機械)	<p>新しい教育観に基づいて、教育の現状の課題を理解し、技術教育の機械分野の指導において使用する教材開発を行う。教材研究の基礎理論(機械)で得られた新たな知見を基に、教材の構想、設計、製作を行う。授業の目標は、「学習目標に合わせて、教材の構想、設計、製作ができる。」「製作した教材を用いた指導計画、評価計画を作成できる。」としている。技術教育では学習指導要領が改訂される度に指導する題材が新たに加わる傾向がある。今後新たな題材を授業で実施する際にも、教材開発ができるように資質や能力の向上を目指す。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回)</p> <p>(38 玉井輝之／15回) 機械領域を内容的視点から検討する。 (49 森慎之助／15回) 教科教育学的視点から検討する。</p>	共同
教科領域コース	発展科目	教材研究の基礎理論 (材料加工)	<p>新しい教育観に基づいて、教育の現状の課題を理解し、技術教育の材料と加工分野の指導において、指導内容に適した教材について学習する。授業の目標は、「学習目標に対応した教材の選定ができる。」「教材を利用した学習指導計画が立てられる。」としている。材料と加工分野の教材について、現在使用されているものを調査する。学習目標、授業時数、材料別等に整理し動向を把握する。そして、材料と加工分野における教材について、学習指導要領の各視点から検討を行いながら、教材の構想を作り上げる。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回)</p> <p>(49 森慎之助／15回) 材料加工領域を内容的視点から検討する。 (31 玉井輝之／15回) 教科教育学的視点から検討する。</p>	共同
教科領域コース	発展科目	教材の開発と実践 (材料加工)	<p>新しい教育観に基づいて、教育の現状の課題を理解し、技術教育における材料加工分野の指導において使用する教材開発を行う。授業の目標は、「学習目標に合わせて、教材の構想・設計、加工、組み立てができる。」「製作した教材を用いた指導計画、評価計画を作成できる。」としている。教材研究の基礎理論(材料加工)の授業で学習した内容を踏まえ、材料加工分野の教材について、構想・設計、加工、組立てを行う。学習場面を想定した教材の使用についてプレゼンテーションを行う。技術教育では学習指導要領が改訂される度に指導する題材が新たに加わる傾向がある。今後新たな題材を授業で実施する際にも、教材開発ができるように資質や能力の向上を目指す。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回)</p> <p>(49 森慎之助／15回) 材料加工領域を内容的視点から検討する。 (31 玉井輝之／15回) 教科教育学的視点から検討する。</p>	共同

コース別選択科目	教科領域コース	<p>教材研究の基礎理論 (スポーツ)</p>	<p>教材研究の基礎になるスポーツ分野の諸科学について学習する。生徒の運動課題の改善にむけて、スポーツの文化的意義や運動科学の視点から基礎理論の身に付け、ディスカッションやプレゼンテーションの手法を用いて、自己の考えを発表して、授業づくりや教材研究のための知識や活用について理解を深める。授業形態は、オムニバス方式で行う。それぞれの内容について、文献を選択し、論読する。担当者は、概要をまとめたレジュメを準備し、発表する。発表内容についてディスカッションしたのち、教材開発への応用について検討する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(51 石井浩一 /5回) スポーツの歴史と文化の内容について、国内外の文献を検討しながら、現代の運動課題やスポーツの文化的意義の理論を解説し、それらを踏まえた教材研究を行うための基礎的理論を担当する。</p> <p>(58 福田隆 /5回) 実技指導と動作分析の内容について、国内外の文献を検討しながら、実技評価、動作分析の方法論、指導と評価の理論を解説し、それらを踏まえた教材研究を行うための基礎的理論を担当する。</p> <p>(51 石井浩一・58 福田隆/5回) (共同) スポーツ分野における教材開発の実践的学習を実施する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
コース別選択科目	教科領域コース	<p>教材の開発と実践 (スポーツ)</p>	<p>保健体育科のスポーツ分野における教材の開発と実践について学習する。生徒の実態と課題を考慮しながら、教材開発のための知識や応用について理解を深め、模擬授業と省察を繰り返しながら、スポーツの教材化とその方法について深化を図る。授業形態は、オムニバス方式(一部、ティーム・チーミング方式を含む)で行う。教材開発のための内容について、先行実践を選択し、各回のテーマについて理解を深める。その知識を基に、個人的スポーツ、集団的スポーツ、対人的スポーツの模擬授業と省察を実施し、教材開発への改善・発展について検討する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(14 日野克博 /3回) スポーツの教材開発にむけて、教育的価値、生徒理解、学習過程、ICTの活用、学習評価の視点で、教材開発のための理論を担当する。</p> <p>(19 糸岡夕里 /2回) スポーツの教材開発にむけて、授業設計の方法や学習指導計画の作成の視点で、教材開発のための理論を担当する。模擬授業及び省察では指導助言を行う。</p> <p>(14 日野克博・19 糸岡夕里/10回) (共同) スポーツ分野における模擬授業の開発及び省察の実施において指導助言を行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
コース別選択科目	教科領域コース	<p>教材研究の基礎理論 (健康)</p>	<p>授業目標は健康に関する教材研究の基礎理論として、健康教育および運動心理に関わる文献を中心に講読し、健康教育および運動心理学的側面から教材研究を行うための科学的基礎を習得する。授業形態は、オムニバス方式(一部、ティーム・チーミング方式を含む)で行う。それぞれの内容について、文献を選択し、輪読する。担当者は、概要をまとめたレジュメを準備し、発表する。発表内容についてディスカッションしたのち、教材開発への応用について検討する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(80 上田敏子/5回) 主に健康教育の内容について、国内外の文献を検討しながら、現代の健康課題や健康行動科学の理論を解説し、それらを踏まえた教材研究を行うための基礎的理論を担当する。</p> <p>(56 田中雅人/5回) 主に運動心理学の内容について、国内外の文献を検討しながら、運動行動変容、動機づけ、運動学習の理論を解説し、それらを踏まえた教材研究を行うための基礎的理論を担当する。</p> <p>(80 上田敏子・56 田中雅人/5回) (共同) 健康分野における教材開発における指導助言を行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

コース別選択科目	教科領域コース	教材の開発と実践 (健康)	<p>授業の前半は、保健体育科における健康の内容についての教材開発と授業実践のための基礎的・基本的な知識を学習する。授業の後半では、前半での授業内容を踏まえて、体づくり運動、体育理論、保健の模擬授業と省察を通して、保健体育科の授業設計、授業実践、授業改善の知識と活用について深く考察する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(19 糸岡夕里 /5回) 主に、体づくり運動、体育理論の内容についての教材開発やその評価、授業設計について担当する。模擬授業及び省察では指導助言を行う。</p> <p>(80 上田敏子 /5回) 主に、保健の内容についての教材開発やその評価、授業設計について担当する。模擬授業及び省察では指導助言を行う。</p> <p>(19 糸岡夕里・80 上田敏子/5回) (共同) 健康分野における模擬授業及び省察の指導助言を行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
コース別選択科目	教科領域コース	教材研究の基礎理論 (食物)	<p>家庭科の食物分野について、学習指導要領を踏まえた教材研究に繋がる基礎的な理論を学ぶ。学部卒業者に関しては、食物分野における先行研究や授業事例をもとに、教材研究の基礎理論を学び、科学的な視点を通して、教材研究の遂行能力をつける。現職教員に関しては、食物分野における先行研究や授業事例をもとに、教材研究の基礎理論を学び、教員と生徒の双方向対話型の授業を見据えて、教材研究の遂行能力をつける。これらをもとに、アクティブラーニングに活かせる新たな指導法についての視点を習得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(20 岡本威明/8回) 先行研究や授業事例をもとに食物分野の基礎理論についての指導を行い、科学的な視点を通して、教材研究の遂行能力の向上を図る。</p> <p>(20 岡本威明・78 眞鍋郁代/7回) (共同) 先行研究や授業事例をもとに科学的な視点を通して、教材研究の遂行能力の向上を図る。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
コース別選択科目	教科領域コース	教材研究の基礎理論 (被服)	<p>家庭科の被服分野について、学習指導要領を踏まえた教材研究に繋がる基礎的な理論を学ぶ。学部卒業者に関しては、被服分野における先行研究や授業事例をもとに、教材研究の基礎理論を学び、科学的な視点を通して、教材研究の遂行能力をつける。現職教員に関しては、被服分野における先行研究や授業事例をもとに、教材研究の基礎理論を学び、教員と生徒の双方向対話型の授業を見据えて、教材研究の遂行能力をつける。これらをもとに、アクティブラーニングに活かせる新たな指導法についての視点を習得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(78 眞鍋郁代/8回) 先行研究や授業事例をもとに被服分野の基礎理論についての指導を行い、科学的な視点を通して、教材研究の遂行能力の向上を図る。</p> <p>(78 眞鍋郁代・20 岡本威明/7回) (共同) 先行研究や授業事例をもとに科学的な視点を通して、教材研究の遂行能力の向上を図る。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

コース別選択科目	教科領域コース	<p>教材の開発と実践 (食物・被服)</p>	<p>学習指導要領を踏まえた授業づくりの実践的方法について学ぶ。学部卒業者に関しては、食物分野・被服分野について、先行研究や授業事例をもとに、授業づくりの視点を学び、模擬授業と検討会を通して、授業力を向上させる。現職教員に関しては、食物分野・被服分野について、授業づくりに関する新たな発想や手法についてリサーチ・提起し、模擬授業とその検討会を通して、授業力の向上に貢献できるようにする。これらをもとに、新たな授業構想と教材の開発を行い、食分野・被服分野の指導法についての新たな視座を得、授業づくりの手法を習得する。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回)</p> <p>(73 竹下浩子・20 岡本威明／5回) 食物分野の教材開発や授業づくりの視点を学ばせ、実践と検討を通して、授業力の向上を図る。 (73 竹下浩子・78 眞鍋郁代／5回) 被服分野の教材開発や授業づくりの視点を学ばせ、実践と検討を通して、授業力の向上を図る。 (73 竹下浩子／5回) 家庭科教育全体の視点で教材開発や授業づくりの視点を学ばせ、実践と検討を通して、授業力の向上を図る。</p>	共同
コース別選択科目	教科領域コース	<p>教材研究の基礎理論 (保育・家庭生活)</p>	<p>家庭科における保育・家庭生活分野の指導に必要な実践的指導力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(41 金子省子／5回) 保育分野について、授業づくりの視点として、生徒の実態、学習環境、教材、指導方法などの課題を理解する。 (73 竹下浩子／5回) 家庭生活分野について、授業づくりの視点として、生徒の実態、学習環境、教材、指導方法などの課題を理解する。 (41 金子省子・73 竹下浩子／5回) (共同) 学部卒業者に関しては、保育・家庭生活分野のこれらの課題の理解を踏まえた授業づくりの実践的方法を習得する。現職教員については、保育・家庭生活分野の課題の整理・検討を踏まえた授業づくりの実践的方法を授業づくりに活かす。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
コース別選択科目	教科領域コース	<p>教材の開発と実践 (保育・家庭生活)</p>	<p>学習指導要領を踏まえた授業づくりの実践的方法について学ぶ。学部卒業者に関しては、保育・家庭生活分野について、先行研究や授業事例をもとに、授業づくりの視点を学び、模擬授業と検討会を通して、授業力を向上させる。現職教員に関しては、保育・家庭生活分野について、授業づくりに関する新たな発想や手法についてリサーチ・提起し、模擬授業とその検討会を通して、授業力の向上に貢献できるようにする。これらをもとに、新たな授業構想と教材の開発を行い、保育・家庭生活分野の指導法についての新たな視座を得、授業づくりの手法を習得する。</p> <p>(ティームティーチング方式／全15回)</p> <p>(41 金子省子／15回) 学部卒業者に関しては、保育・家庭生活分野のこれらの課題の理解を踏まえた授業づくりの実践的方法を習得する。現職教員については、保育・家庭生活分野の課題の整理・検討を踏まえた授業づくりの実践的方法を授業づくりに活かす。 (15 藤田昌子／15回) 家庭科教育全体の視点で教材開発や授業づくりの視点を学ばせ、実践と検討を通して、授業力の向上を図る。</p>	共同

コース別設定科目	教科領域コース	<p>教材研究の基礎理論 (器楽)</p>	<p>器楽（ピアノ・管楽器等）の奏法及び楽曲分析に関する基礎理論を応用し、音楽科における器楽領域の教材研究に活かす力を身につけることを目標としている。授業の概要は、器楽作品の演奏を通して器楽（ピアノ・管楽器）の基本的奏法及び多様な表現法を習得する。また、楽曲構造と楽曲分析法の導入を学習し、教材研究力・分析力と演奏技能、指導法を理論と実践の両面から身につける。ピアノ領域では、授業実践で活かせる実技能力の向上を目指し、管楽器領域では、実技能力向上とともに管楽アンサンブルや指揮などを通じて音楽をする喜びや楽しさを児童生徒に伝えるのに効果的な指導法を考察する。最終試験は、演奏発表とディスカッションを行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(46 市川克明・60 安積京子／6回) (共同) ピアノの基礎的奏法・音階・練習曲などの実技指導を行う。 (46 市川克明・77 福富彩子／6回) (共同) ピアノ独奏曲・伴奏曲の実技指導及び表現法・指導法についての指導を行う。 (46 市川克明／3回) 管楽器・管楽アンサンブル・室内楽などの実技指導を行う。</p> <p>共同により、器楽曲の形式・楽曲構造・分析法の指導、及び器楽(指揮法・アンサンブル含む)の指導法に関する指導を行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
コース別設定科目	教科領域コース	<p>教材の開発と実践 (器楽)</p>	<p>器楽（ピアノ・管楽器）及びアンサンブルの演奏技能、各指導法、指揮法、楽曲分析法を習得し、それらを援用して音楽科における教材の開発と実践に活かすことができることを目標としている。本授業では、器楽曲（ピアノ・管楽器・アンサンブル）の演奏と楽曲分析を通して高度な技能・表現力を身につけると同時に、各指導法を習得する。理論と実践の両面から作品研究・教材開発を行い、教材の提案に対してディスカッションと考察を重ね、最終試験は、演奏・プレゼンテーションによる発表を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(60 市川克明・安積京子／6回) (共同) 実践的なピアノ指導法・奏法の指導を行う。 (60 市川克明・77 福富彩子／6回) (共同) 基礎楽式と応用楽式の楽曲分析の指導を行う。 (46 市川克明／3回) 管楽合奏（吹奏楽）の指導法・奏法の指導と、管楽作品の楽曲分析の指導を行う。 共同により、器楽領域における教材の開発・提案に対して討議を行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
コース別設定科目	教科領域コース	<p>教材研究の基礎理論 (鑑賞・創作)</p>	<p>小中高等学校音楽科授業において必要とされる、鑑賞、および創作活動のための教材研究に活かす力を身につけることを目標としている。授業の概要は、器楽作品、声楽作品などの鑑賞教材を取り上げ、プレゼンテーションや模擬授業を通じ、その効果的、実用的な紹介の方法を研究する。最終試験は、選択したテーマをもとに45分間の模擬授業を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(33 井上洋一46 市川克明／6回) (共同) 教科書で取り上げられている楽曲を、音楽史の見地より指導を行い、効果的な指導法についてアドバイスをを行う。 (33 井上洋一／3回) 基本的な創作を通じ、楽曲の様式・形式について理解を深めさせる。 (33 井上洋一77 福富彩子／6回) (共同) 創作した楽曲を鍵盤楽曲などを用いて実際に演奏を行い、小中学校授業において、創作活動と演奏活動が有機的に結びついた指導法についてディスカッションを通じて考えさせる。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

コース別設定科目	教科領域コース	教材の開発と実践 (鑑賞・創作)	<p>教材研究の基礎理論を踏まえ、鑑賞・創作・実技・理論など音楽の様々な分野の有機的なつながりを目指し、発展的な教材の活用方法を身につけさせる。一つの教材を様々な分野に応用することにより、より深く音楽を理解できるようになると同時に、従来ばらばらに実施されていた、上記のような項目を様々な角度から俯瞰することにより将来の授業実践に役立てる。最終的に教材の独自の授業実践方法を考案し、模擬授業・プレゼンテーションによる発表を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(33 井上洋一・46 市川克明／6回) (共同) 鑑賞教材をもとに多角的な方面からのアプローチの方法を身につけさせる。</p> <p>(33 井上洋一・60 安積京子／6回) (共同) 鑑賞と実技の有機的なつながりを通じた、効果的な授業方法を組み立てさせる。</p> <p>(33 井上洋一／3回) 鑑賞と創作の有機的なつながりを通じた効果的な授業方法を組み立てさせる。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
コース別設定科目	教科領域コース	教材研究の基礎理論 (歌唱)	<p>声楽、鍵盤楽器の分野からみた音楽教育の意義・目的・内容・学習材・学びの在り方等について、講義及び演習を行う。歌唱指導全般にわたる知識・理解を深め、必要な技能を習得するとともに、学校種や目標に応じた具体的な指導計画を立案し発表する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(35 楠俊明／3回) 音楽科教育全般と歌唱活動の位置づけや意義、カリキュラム開発について論究する。声楽専門分野からのアプローチとして発声や合唱の指導法を担当する。</p> <p>(35 楠俊明・60 安積京子／6回) (共同) 高等学校教材、特に外国歌曲についての分析を行う。ピアノ専門分野からのアプローチとして伴奏についての知識・技能や指導法の演習を担当する。</p> <p>(35 楠俊明・77 福富彩子／6回) (共同) 中学校教材、特に共通教材についての分析を行う。ピアノ専門分野からのアプローチとして伴奏についての知識・技能や指導法の演習を担当する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
コース別設定科目	教科領域コース	教材の開発と実践 (歌唱)	<p>教材研究の基礎理論を踏まえ、声楽、鍵盤楽器の分野からみた音楽教育の意義・目的・内容・学習材・学びの在り方等について、実践に向けた具体的な講義及び演習を行う。各自が計画した具体的な指導計画を、履修者で協働して改善し、学部の教科教育法履修生や附属学校の生徒を対象に授業実践を行う。さらに、その省察を踏まえて、今後の課題と研究点をあきらかにする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(35 楠俊明／3回) 音楽科教育全般と歌唱活動の位置づけや意義、カリキュラム開発について論究する。声楽専門分野からのアプローチとして発声や合唱の指導法を担当する。</p> <p>(35 楠俊明・60 安積京子／6回) 高等学校教材、特に外国歌曲についての分析を行う。ピアノ専門分野からのアプローチとして伴奏についての知識・技能や指導法の演習を担当する。</p> <p>(35 楠俊明・77 福富彩子／6回) 中学校教材、特に共通教材についての分析を行う。ピアノ専門分野からのアプローチとして伴奏についての知識・技能や指導法の演習を担当する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

<p>コース別設定科目</p>	<p>教科領域コース</p>	<p>教材研究の基礎理論 (絵画・彫刻)</p>	<p>絵画・彫刻分野における優れた教育実践の基盤となることを目的に、理論と実践の関係を踏まえて、高度な素材及び技法研究と制作実践に取り組む。さらに、絵画・彫刻・美術科教育の各教員の専門的な観点から助言を得て、多角的な検討と各分野自体の批評的考察をすることによって、高度な教材研究に取り組む。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(84 長谷川隆子・64 佐々木昌夫・36 秋山敏行／5回) (共同)</p> <p>ガイダンス、絵画作品の合評、彫刻作品の合評、絵画・彫刻両分野の省察、絵画・彫刻両分野の総括</p> <p>(84 長谷川隆子／5回)</p> <p>絵画分野における作品とコンセプトの関係を考察し、多様な素材と技法について研究する。また、絵画における固有の色彩と形の性質について分析するとともに、絵画的空間と彫刻的空間の各特性と差異について研究する。これらのことをとおして、自立した質の高い作品とその制作過程の関係を明らかにすることをめざす。</p> <p>(64 佐々木昌夫／5回)</p> <p>彫刻分野における作品とコンセプトの関係を考察し、多様な素材と技法について研究する。また、彫刻における固有の色彩と形の性質について分析するとともに、絵画的空間と彫刻的空間の各特性と差異について研究する。これらのことをとおして、自立した質の高い作品とその制作過程の関係を明らかにすることをめざす。</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p>
<p>コース別設定科目</p>	<p>教科領域コース</p>	<p>教材の開発と実践 (絵画・彫刻)</p>	<p>教材研究の基礎理論(絵画・彫刻)での素材及び技法研究と制作実践の成果を応用して、絵画・彫刻分野における独自の教材開発に取り組む。このことにより、生徒が現代社会の様々な事象と向き合って成長するために、不可欠な創造力の育成へ向けた、美術教育の内容と方法を探究する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(84 長谷川隆子・64 佐々木昌夫・36 秋山敏行／3回) (共同)</p> <p>ガイダンス、絵画・彫刻両分野の省察、全体の総括</p> <p>(84 長谷川隆子・36 秋山敏行／6回)</p> <p>絵画分野の既存の多様な教材資料を収集し、整理、検討する。それらを踏まえながら、素材及び技法研究と制作実践の成果に基づいて、絵画の特性を考慮し、教材の特性や指導目的、指導方法を考察する。また、開発した新しい教材に対して実践的に検討し、修正をくわえる。さらに、絵画・美術科教育の各教員の専門的な観点から助言を得て、多角的な検討と各分野自体の批評的考察に取り組む。</p> <p>(64 佐々木昌夫・36 秋山敏行／6回)</p> <p>彫刻分野の既存の多様な教材資料を収集し、整理、検討する。それらを踏まえながら、素材及び技法研究と制作実践の成果に基づいて、彫刻の特性を考慮し、教材の特性や指導目的、指導方法を考察する。また、開発した新しい教材に対して実践的に検討し、修正をくわえる。さらに、彫刻・美術科教育の各教員の専門的な観点から助言を得て、多角的な検討と各分野自体の批評的考察に取り組む。</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p>

コース別設定科目	教科領域コース	<p>教材研究の基礎理論 (デザイン・工芸)</p>	<p>本授業では中学校美術科ならびに高等学校芸術科美術におけるデザインと工芸にかかわる基本的な技術や理論を、素材と行為についての演習と2つの課題制作を通して培う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(52 千代田憲子、43 原田義明、21 福井一真/4回) (共同) ガイダンス、デザイン：成果発表、工芸：成果発表、全体のまとめ (21 福井一真/1回)</p> <p>中学校美術科ならびに高等学校芸術科美術におけるデザインと工芸にかかわる基本的な技術や理論について、素材と行為に関する演習を通して学ぶ。</p> <p>(52 千代田憲子/5回) デザインの題材を選択して必要な調査を行い、アイデアの展開や試作を通して制作を進め、制作のまとめとして成果発表を行う。以上をデザイン分野と工芸分野において繰り返し行うことで、実践へ結びつけるために必要な造形的思考を深めながら具現化する力を修得するとともに総合的な視野と客観性も培っていく。</p> <p>(43 原田義明/5回) 工芸の題材を選択して必要な調査を行い、アイデアの展開や試作を通して制作を進め、制作のまとめとして成果発表を行う。以上をデザイン分野と工芸分野において繰り返し行うことで、実践へ結びつけるために必要な造形的思考を深めながら具現化する力を修得するとともに総合的な視野と客観性も培っていく。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
コース別設定科目	教科領域コース	<p>教材の開発と実践 (デザイン・工芸)</p>	<p>本授業では中学校美術科ならびに高等学校芸術科美術におけるデザインと工芸にかかわる教材研究を実施した上で、中学校もしくは高等学校で実施可能な授業の提案を行うものである。①教材研究、②授業の立案、③授業の実践という一連の流れを行うことで、教材の開発や授業を立案・実施する実践力を培っていく。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(52 千代田憲子、43 原田義明、21 福井一真/5回) (共同) ガイダンス、デザイン：模擬授業、デザイン：模擬授業の省察、工芸：模擬授業、工芸：模擬授業の省察 (52 千代田憲子・21 福井一真/5回)</p> <p>教材研究1～3では、すでに実践されているデザインの題材の調査を行い、模擬授業で用いる題材を実施し検討する。教材研究で見出された題材のポイントを踏まえた授業案を立案し、学部生を対象とした模擬授業を実施する</p> <p>(43 原田義明・21 福井一真/5回)</p> <p>教材研究1～3では、すでに実践されている工芸の題材の調査を行い、模擬授業で用いる題材を実施し検討する。教材研究で見出された題材のポイントを踏まえた授業案を立案し、学部生を対象とした模擬授業を実施する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
コース別設定科目	教科領域コース	<p>教材研究の基礎理論 (美術理論・美術史)</p>	<p>美術史の名品に関する基礎的な情報を収集・整理し、先行研究を踏まえた上で、鑑賞教育にむけての作品研究をすすめる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(66 上原真依/10回)</p> <p>現職教員は当該年度に公開される国内の展覧会で実見できる作品を中心に、学部卒業生などは教科書に取り上げられる作品を中心に、その作家および作品、時代の特徴を解説するための研究をすすめる。具体的には、研究対象の作品もしくは作家に関する論文を収集、解題を進めるとともに文献表を作成し、先行研究の問題点を探究する。</p> <p>(66 上原真依・36 秋山敏行/5回) (共同)</p> <p>収集した資料から、鑑賞教育に活用できる情報を精査・検討する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

<p>コース別設定科目</p>	<p>教科領域コース</p>	<p>教材研究の実践 (美術理論・美術史)</p>	<p>美術史の名品を扱う鑑賞教育にむけての教材研究を実践する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(66 上原真依／6回) 学校教育現場での美術鑑賞指導の実践に向け、鑑賞の基礎スキルとしての言語による「ディスクリプション(作品記述)」の手法、よく見てよく考える鑑賞のための具体的なコミュニケーション手法を学ぶ。</p> <p>(66 上原真依・36 秋山敏行／9回) (共同) 「ディスクリプション(作品記述)」の手法、よく見てよく考える鑑賞のための具体的なコミュニケーション手法により、選択した作品を使って鑑賞教育を実践する。現職教員は当該年度に公開される国内の展覧会と関連づけ、日本で実見することができる作品と展覧会の見どころを解説することを目標とする。学部卒業者などは、教科書でよく取り上げられる名品を中心に、その作家および作品、時代の特徴を解説することができるようにする。</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p>
<p>コース別選択科目</p>	<p>教科領域コース</p>	<p>教材開発課題研究1</p>	<p>本科目の到達目標は、以下の3点である。</p> <p>(1)学校・学年・学級での教科指導等の支援実践を通して、課題を発見し、その解決案を構想することができる。</p> <p>(2)指導チームで検討した解決策を、学校・学年・学級の実情や教育内容に応じて実行することができる。</p> <p>(3)課題研究プレゼンテーションのテーマを設定することができる。</p> <p>前期連携校実習での実践支援経験を、報告・省察することによって、教科指導等の実践知を形成する。また、当該実習において発見した実践課題を共有し、改善策を指導チーム(連携校実習の実習アドバイザー＝連携協力校教員、研究者教員、実務家教員の3名で構成)において検討する。課題研究プレゼンテーションに向けての課題探索の機会として位置づけられる。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全15回)</p> <p>(9 駕原進／15回) 社会認識教育の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(28 藤堂浩伸／15回) 学校での実務経験を基にして、国語教育の実践成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、実践的側面から指導を行う。</p> <p>(11 吉村直道／15回) 数学教育の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(16 向平和／15回) 理科教育の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(34 立松大祐／15回) 英語教育の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(33 井上洋一／15回) 音楽教育の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(36 秋山敏行／15回) 美術教育の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(18 大西義浩／15回) ICT教育論の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(15 藤田昌子／15回) 家庭科教育の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(14 日野克博／15回) 保健体育科教育の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p>	<p>共同</p>

<p>コース別選択科目</p>	<p>教科領域コース</p>	<p>教材開発課題研究2</p>	<p>共同</p>
-----------------	----------------	------------------	-----------

本科目の到達目標は、以下の4点である。

(1) 学校での教科指導等の授業実践並びに実践支援を通して、課題を発見し、その解決案を構想することができる。

(2) 指導チームで検討した解決策を、学校・学年・学級の実情や教育内容に応じて実行することができる。

(3) 課題研究プレゼンテーションのテーマを探究し、報告内容をまとめることができる。

(4) 1年間の学習及び実践の成果を、「実践研究報告書」にまとめ、課題研究プレゼンテーションにおいて豊かな表現力をもって報告することができる。【1年修了制度が適用される現職教員のみ】

後期連携校実習での実践支援経験を、報告・省察することによって、教科指導等の実践知を形成する。また、当該実習において発見した実践課題を共有し、改善策を指導チーム（連携校実習の実習アドバイザー＝連携協力校教員、研究者教員、実務家教員の3名で構成）において検討する。学部卒業者は教材開発課題研究3の課題研究プレゼンテーションに向けての課題探索の機会として、現職教員は課題探究の機会として位置づけられる。

(ティーム・ティーチング方式／全15回)

(9 篤原進／15回)
社会認識教育の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。

(28 藤堂浩伸／15回)
学校での実務経験を基にして、国語教育の実践成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、実践的側面から指導を行う。

(11 吉村直道／15回)
数学教育の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。

(16 向平和／15回)
理科教育の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。

(34 立松大祐／15回)
英語教育の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。

(33 井上洋一／15回)
音楽教育の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。

(36 秋山敏行／15回)
美術教育の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。

(18 大西義浩／15回)
ICT教育論の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。

(15 藤田昌子／15回)
家庭科教育の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。

(14 日野克博／15回)
保健体育科教育の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。

<p>コース別選択科目</p>	<p>教科領域コース</p>	<p>教材開発課題研究3</p>	<p>本科目は実践研究報告書の作成とプレゼンテーションに位置づけられる。到達目標は以下の2点である。 (1)2年間の学習及び実践の成果を、「実践研究報告書」にまとめることができる。 (2)課題研究プレゼンテーションにおいて豊かな表現力をもって報告することができる。 連携校実習での実践支援経験を、報告・省察することによって、教科指導等の実践知を形成する。また、当該実習において発見した実践課題を共有し、改善策を指導チーム（連携校実習の実習アドバイザー＝連携協力校教員、研究者教員、実務家教員の3名で構成）において検討する。指導チームとの協議は、大学及び勤務校において行われる。2年間の実践を実践研究報告書にまとめ、課題研究プレゼンテーションにおいて報告する。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式／全30回)</p> <p>(9 鴛原進／30回) 社会認識教育の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(28 藤堂浩伸／30回) 学校での実務経験を基にして、国語教育の実践成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、実践的側面から指導を行う。</p> <p>(11 吉村直道／30回) 数学教育の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(16 向平和／30回) 理科教育の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(34 立松大祐／30回) 英語教育の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(33 井上洋一／30回) 音楽教育の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(36 秋山敏行／30回) 美術教育の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(18 大西義浩／30回) ICT教育論の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(15 藤田昌子／30回) 家庭科教育の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p> <p>(14 日野克博／30回) 保健体育科教育の研究成果に基づき、担当学生の課題研究レポート及びプレゼンテーションの充実のために、理論的側面から指導を行う。</p>	<p>共同</p>
-----------------	----------------	------------------	---	-----------

<p>コース別選択科目</p>	<p>特別支援教育コース</p>	<p>特別支援教育総論</p>	<p>特別支援教育を実践していく上での特別支援教育の理念、歴史、支援対象、学校における支援システム、最新の動向等について学ぶことで、特別支援教育がめざす児童生徒の一人ひとりの違いとニーズを尊重する教育の必要性を理解し、児童生徒の障害特性やニーズに応じた配慮・支援の在り方を発展的に考え、実践できる。学校教育の今日的課題や共生社会の形成、インクルーシブ教育の推進といった特別支援教育学校・園における特別支援教育のシステムの全体像について発展的に学ぶ。さらに、通常の学級を中心に支援の対象となる児童生徒の障害特性や支援ニーズを知り、個別の指導計画や教育支援計画の作成、関係機関との連携等について、相互を機能的・発展的に教授する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(59 立入哉／3回) 主として特別支援教育の概要・聴覚障害について担当する。 (6 吉松靖文／3回) 主として発達障害について担当する。 (31 榎木暢子／2回) 主として特別支援教育の意義・運動機能障害について担当する。 (32 加藤哲則／3回) 主として特別支援教育の歴史、制度・支援、指導計画について担当する。 (7 荻田知則／2回) 主として特別支援教育システム・知的障害について担当する。 (76 中野広輔／2回) 主として健康障害・関連機関との連携について担当する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>コース別選択科目</p>	<p>特別支援教育コース</p>	<p>障害児の聴能の理論と実際</p>	<p>本科目では、教育聴能学の発展的内容を取り扱う。聴覚特別支援学校（聾学校）において、自立活動担当者に必要な知識と技能として、まずは、補聴器の調整法と評価法について演習を通して学ぶ。さらに聴覚情報処理障害（APD）の評価法についても検査音の作成演習を通して、具体的に理解を深める。全体を大きく3つに分け、最初は個人用補聴器の調整法と評価法を取り上げる。次に教室で用いられる集団補聴器の各種それぞれの長所と短所を演習を通して理解する。最後に聴覚情報処理障害については検査音作成の手法を通して、評価法を具体的に理解する。</p>	
<p>コース別選択科目</p>	<p>特別支援教育コース</p>	<p>聴覚言語障害への心理学的対応</p>	<p>聴覚障害に関係する音響心理、音声の心理、聴覚心理について演習を通して理解できる。人工内耳装用児者の心理に触れるにあたり、人工内耳の概要を理解し、装用児者の心理を理解できる。本講義は3期に分かれる。最初に音響心理として、音に関係する発展的な評価法について演習を通して教授する。次に、発せられる音声について、獲得と発達の知見に基づいて、評価法を教授する。最後に、人工内耳を取り上げ、人工内耳の仕組みや調整法、これらがどのような対象にして手術が行われているかを知り、さらに獲得できる聴覚と音声への理解を踏まえて、装用児者の心理について教授する。</p>	
<p>コース別選択科目</p>	<p>特別支援教育コース</p>	<p>聴覚障害教育の理論と実践</p>	<p>聴覚障害児教育の現状を把握し、聴覚障害児の教育的なアセスメントに基づいた実際の指導計画作成や模擬授業の実施を通じて、教科や自立活動の指導力の向上をめざす。</p>	
<p>コース別選択科目</p>	<p>特別支援教育コース</p>	<p>聞こえの困難への教育的対応</p>	<p>聞こえに困難のある幼児児童生徒への教育的な対応に必要な教育制度や支援体制・関係機関、実際の支援機器や支援方法についての理解を深め、個に応じた教育的対応を考案し、教育支援計画・個別の指導計画を立案・実施する実践力の向上をめざす。</p>	

コース別選択科目	特別支援教育コース	認知機能の困難への心理的対応	知的障害児は認知発達の遅れに加え、発達障害等の併存する障害があることが多い。知的障害を中心に発達障害等の認知機能の障害の特性と支援の在り方について学ぶ。対人関係・適応機能の困難、注意集中の困難、特異的な学習の困難について、それらの困難さの背景にある認知機能の障害の特性とそれらの特性に合わせた支援の在り方について学ぶ。	
コース別選択科目	特別支援教育コース	運動機能の困難への心理的対応	脳性まひを中心とした肢体不自由児者、及び発達性協調運動障害をはじめとして運動機能に困難がある子の(1)疫学(定義、病理学的基礎、臨床像)、(2)身体運動の発達(及びその障害)、(3)視覚運動面・言語聴覚面の発達(及びその障害)、(4)教育上の配慮・支援等について学ぶ。特別支援学校はもちろん、特別支援学級に在籍している児童生徒や、通級による指導を受けている子、通常の学級に在籍しているが運動機能について特別なニーズを持っている子への心理的対応について、実践的に学び、実践事例と対応づけて省察する。	
コース別選択科目	特別支援教育コース	保健医療福祉との連携と医療的対応	本授業のテーマは慢性疾患や発達に課題がある子どもに必要な地域関連職種との連携と医療的対応についてである。慢性疾患や障害のある子どもに必要な医療的対応の基礎知識を身に付け、地域の保健医療福祉との具体的連携方法を発案・計画できることが本授業の目標である。現職教員は自身の教職経験を生かし自ら実践に直結する具体的な方法を提案できる、学部卒業生は学校内の教職員と協働して対応をはかる「学校内の連携・実践力」から習得する必要がある。授業内容：特別支援教育の対象児の支援に必須の保健医療福祉分野に関する基礎知識を身につける演習である。また、実際の子どもの模したケースにおいてその基礎知識を生かしながら効果的に連携する方法を計画・実行するための演習も行う。特に慢性疾患や発達に課題のある子どもについて医療機関や福祉施設スタッフと共有すべき情報の選択や共有方法を習得することを重視する。	
コース別選択科目	特別支援教育コース	学校における支援体制	校内委員会と特別支援教育コーディネーターの役割、子どものつまずきの実態把握の方法、実態把握とアセスメントに基づく個別の指導計画の作成、校内リソースの活用法、保護者や学校外の諸機関との連携、個別の教育支援計画の作成など、学校における支援体制作りについて、小グループによる討議とその発表・討論を通じて実践的に学ぶ。また、幼児期や高校期以降の支援についても、学校における体制作りと関連づけて学ぶ。	
コース別選択科目	特別支援教育コース	個別の指導計画の作成と実施	個別の教育支援計画・指導計画・移行支援計画の作成について概説する。演習として愛媛大学教育学部附属支援学校での観察実習を行う。ケース児童生徒を選定し、指導場面を観察しながら、障害特性や関わり方に対する理解を深め、個別の指導計画を作成する。附属特別支援学校の担任教員がオブザーバーとして同席し、個別の指導計画の検討を行う。個別の指導計画は1年間の長期目標、学期ごとの短期目標と指導の手立てを記入するとともに、将来の社会的自立に向け必要な力を養う手立ての検討を行う。	
コース別選択科目	特別支援教育コース	社会的自立・就労の指導	病弱者・病気療養者・障害者の就労について、関連法令や関係機関などのリソース、実際の就労事例などを基に現在の特別支援学校におけるキャリア教育の課題を検討し、就労に向けた効果的なキャリア教育の取り組みを教育と福祉・労働の連携・協働によって実現するプログラムを検討する。 (オムニバス方式/全15回) (32 加藤哲則/7回) 主に就労に関する制度・就労施設、就労環境について担当する。 (31 樫木暢子/8回) 主にキャリア教育のカリキュラム・指導について担当する。	オムニバス方式

コース別選択科目	特別支援教育コース	<p>重複障害児の教育実践</p>	<p>病気や重複障害により通学が困難な状況にある児童生徒に、適切に対応するためには、その多様な教育的ニーズを理解するとともに、心理学・医学的基礎知識、教育課程と指導法について専門性の高い知識を有する必要がある。本科目では、病弱児・重複障害児の多様性を学び、教育現場における実践に資する実技を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(31 榎木暢子／8回) 病弱・重複障害児の教育課程、病弱・重複障害児の健康支援を担当する。</p> <p>(7 荻田知則／8回) 重複障害の概要、重症心身障害の心理学・医学的基礎知識、盲ろうの心理学・医学的基礎知識、コミュニケーション・生活機能補完の実技を担当する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
コース別選択科目	特別支援教育コース	<p>読み書き困難への対応</p>	<p>学校における主要な学習困難の一つとして「読み書きの障害」を取り上げ、その状態像の理解に基づいて、実態把握方法、アセスメント方法、支援方法の実際について学ぶ。同時に、読み書き困難がある子の心理的特性を理解し、支援・指導の計画を策定・実行する。授業参加者は自らの支援について経験を報告し、担当教員等からの助言に基づいて計画・支援方法の改善を行い、更にそれを実践する過程で真正の理解を獲得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(7 荻田知則／8回) 読み書き能力の発達、読み書き困難がある子の心理学・医学的特性、知能検査等を用いた評価方法、指導方法(学習支援機器等含む)を担当する。</p> <p>(31 榎木暢子／8回) 読み書き困難児の教育課程・指導法、支援体制づくり等を担当する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
コース別選択科目	特別支援教育コース	<p>計算・推論困難への対応</p>	<p>算数・数学を中心に、学習困難の一つとして「計算推論の困難」を取り上げ、困難状況の把握とその評価方法、及び支援方法について学ぶ。同時に、通常の学級等で学ぶ上で困難を抱える子の心理的特性を理解し、支援・指導の計画を策定・実行する。授業参加者は自らの支援について経験を報告し、担当教員等からの助言に基づいて計画・支援方法の改善を行い、更にそれを実践する過程で真正の理解を獲得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(7 荻田知則／8回) 計算・推論機能の発達、計算推論困難がある子の心理学・医学的特性、指導方法(学習支援機器等含む)を担当する。</p> <p>(6 吉松靖文／8回) 計算・推論機能の評価方法、教育課程、計算・推論困難がある子がいる学級・学校の支援体制づくりを担当する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
コース別選択科目	特別支援教育コース	<p>行動上の問題への対応</p>	<p>本授業は発達障害や知的障害児の行動上の問題への実践的対応力についてである。具体的目的は、行動上の問題について、その医学的・心理的要因を深く理解する。また、問題行動の把握方法や効果的アプローチについて、行動アセスメント、応用行動分析などの実践的対応手段について実践的・応用的レベルまで習得する。現職教員は自身の関わったケースについて紹介し、専門的な行動問題の対処法について自ら発案・議論できる、学部卒業生は行動上の問題について、実習等で経験した事例について解説し議論することにより、実際の教育現場での対処を想定したシミュレーションとなることを目指す。</p> <p>授業内容：発達障害児や知的障害児の行動上の問題への実践的対応力という、特別支援教育の現場で必須の技能について扱う。また、それを習得するために応用行動分析による行動把握と解決方法の発案、代表的な行動アセスメント法や行動支援法、学校内および地域における協働方法について専門的レベルまで想定し演習形式で実践力を養成する。</p>	

<p>コース別選択科目</p>	<p>特別支援教育コース</p>	<p>アセスメントの方法と総合的解釈</p>	<p>心理アセスメントとは何か（何を目的に行うのか、何を測ろうとするのか、どうやって測るのか）について学習してから、具体的な検査法や観察法を学ぶ。受講者は、聴覚言語障害、知的障害、肢体不自由、病弱、発達障害、重複障害等がある子の特性を理解する方法（知能検査、聴力検査等）の基礎を理解し、その結果と子どもの実態との対応を学ぶ。また、得られた結果を教育現場での支援・指導計画に反映する手順を学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（6 吉松靖文／5回） 知能検査（WISC-4、K-ABC-2等）を担当する。 （32 加藤哲則／5回） 聴力検査の基礎、聴性行動反応等の行動観察の基礎を担当する。 （7 荻田知則／5回） 視覚認知検査、構音検査、読み書き検査等を担当する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>コース別選択科目</p>	<p>特別支援教育コース</p>	<p>特別支援教育課題研究1</p>	<p>連携校実習での実践支援経験を、報告・省察することによって、実践知を形成する。また、当該実習において発見した実践課題を共有し、改善策を指導チーム（連携校実習の実習アドバイザー＝連携協力校教員、大学教員2名の計3名で構成）において検討する。課題研究プレゼンテーションに向けての課題探索の機会として位置づけられる。</p> <p>（ティーム・ティーチング方式／全15回）</p> <p>（59 立入哉／15回） 主に聴覚障害補償工学、聴覚障害の心理的対応の観点から検討及び指導助言を行う。 （6 吉松靖文／15回） 主に知的障害・発達障害の心理的対応の観点から検討及び指導助言を行う。 （31 榎木暢子／15回） 主に運動機能障害・健康障害・重複障害の教育的対応の観点から検討及び指導助言を行う。 （32 加藤哲則／15回） 主に特別支援教育学、聴覚・言語障害の教育的対応の観点から検討及び指導助言を行う。 （7 荻田知則／15回） 主に障害支援工学、視覚障害、重複障害の心理的対応の観点から検討及び指導助言を行う。 （76 中野広輔／15回） 主に障害児医学、障害生理学、医療・療育・教育連携の観点から検討及び指導助言を行う。</p>	<p>共同</p>
<p>コース別選択科目</p>	<p>特別支援教育コース</p>	<p>特別支援教育課題研究2</p>	<p>連携校実習での実践支援経験を、報告・省察することによって、実践知を形成する。また、当該実習において発見した実践課題を共有し、改善策を指導チーム（連携校実習の実習アドバイザー＝連携協力校教員、大学教員2名の計3名で構成）において検討する。学部卒業者は授業改善課題研究3の課題研究プレゼンテーションに向けての課題探索の機会として、現職教員は課題探究の機会として位置づけられる。</p> <p>（ティーム・ティーチング方式／全15回）</p> <p>（59 立入哉／15回） 主に聴覚障害補償工学、聴覚障害の心理的対応の観点から検討及び指導助言を行う。 （6 吉松靖文／15回） 主に知的障害・発達障害の心理的対応の観点から検討及び指導助言を行う。 （31 榎木暢子／15回） 主に運動機能障害・健康障害・重複障害の教育的対応の観点から検討及び指導助言を行う。 （32 加藤哲則／15回） 主に特別支援教育学、聴覚・言語障害の教育的対応の観点から検討及び指導助言を行う。 （7 荻田知則／15回） 主に障害支援工学、視覚障害、重複障害の心理的対応の観点から検討及び指導助言を行う。 （76 中野広輔／15回） 主に障害児医学、障害生理学、医療・療育・教育連携の観点から検討及び指導助言を行う。</p>	<p>共同</p>

<p>コース別選択科目</p>	<p>特別支援教育コース</p>	<p>特別支援教育課題研究3</p>	<p>連携校実習での実践支援経験を、報告・省察することによって、実践知を形成する。また、当該実習において発見した実践課題を共有し、改善策を指導チーム（連携校実習の実習アドバイザー＝連携協力校教員、大学教員2名の計3名で構成）において検討する。指導チームとの協議は、大学及び勤務校において行われる。2年間の実践を実践研究報告書にまとめ、課題研究プレゼンテーションにおいて報告する。</p> <p>（ティーム・ティーチング方式／全30回）</p> <p>（59 立入哉／30回） 主に聴覚障害補償工学、聴覚障害の心理的対応の観点から検討及び指導助言を行う。</p> <p>（6 吉松靖文／30回） 主に知的障害・発達障害の心理的対応の観点から検討及び指導助言を行う。</p> <p>（31 榎木暢子／30回） 主に運動機能障害・健康障害・重複障害の教育的対応の観点から検討及び指導助言を行う。</p> <p>（32 加藤哲則／30回） 主に特別支援教育学、聴覚・言語障害の教育的対応の観点から検討及び指導助言を行う。</p> <p>（7 荻田知則／30回） 主に障害支援工学、視覚障害、重複障害の心理的対応の観点から検討及び指導助言を行う。</p> <p>（76 中野広輔／30回） 主に障害児医学、障害生理学、医療・療育・教育連携の観点から検討及び指導助言を行う。</p>	<p>共同</p>
<p>実習科目</p>		<p>異校種実習</p>	<p>勤務校あるいは勤務予定校とは異なる種別の学校の児童生徒、教職員、学校経営体制の違いについて、参与観察などを行い、異校種の理解を深める。異校種実習は、連携協力校が集中する松山市内の学校を対象として、学生の関心や移動距離を考案して決定する。異校種実習は1年次9月の2週間にわたり行う（学校での実習日数は10日間）。原則として、小学校及び高等学校教員は中学校、中学校教員は小学校で参与観察とインタビュー法等による資料の収集を行う。異校種実習の課題は、異校種における、児童生徒の実態の把握、教職員の活動（教科指導、学級経営、課外活動等）の理解、学校経営体制の理解である。これらを実地に学習する。</p>	<p>共同</p>
<p>実習科目</p>		<p>小規模校実習</p>	<p>1年次の9月に、小規模校における2週間の実習を通して、小規模校における学習指導・生徒指導等に関する指導のポイントを経験的に理解し、実践的指導力の向上を目指す。松山市内の連携協力校の中から、学生の関心に合致し、また、自宅から勤務できる範囲にある小規模校を選択する。連携協力校の設定においては、複式学級のある学校を優先し、複式学級の指導法についても実践的に学習する。</p>	<p>共同</p>
<p>実習科目</p>		<p>研究指定校実習</p>	<p>1年次後期に、学生が設定する研究課題について先駆的に実践している学校を訪問観察し、課題研究の充実と職能成長促進をめざす研究指定校実習を行う。</p> <p>10月から事前指導として、ガイダンスに加えて、訪問校の特定を行う。訪問校の特定においては、学生の研究関心・職能成長課題を踏まえて行う。本実習では、愛媛県内外で計5日間（40時間）の訪問観察を行う。複数の教員が担当するため、学生全員が同一校に訪問するのではなく、グループに分けて訪問することも可能である。事後指導としては、省察レポート作成の他、省察協議・報告会の場を設ける。</p>	<p>共同</p>
<p>実習科目</p>		<p>連携校実習1</p>	<p>1年次に、課題研究の基盤となる実習を連携協力校において行う。現職教員は勤務校にて地域連携実習を行う。学部卒業者は、研究関心や自宅からの距離等を勘案して実習校を選択する。学生は、主として、水曜日の午前あるいは木曜日に設定されている「地域連携実習校」を利用して、毎週12時間、年間で360時間の実習を行う。現職教員は学校での勤務を通して、研究課題の探求と職能成長課題の探求を試みる。学部卒業者は学級の児童生徒理解、教材研究、授業実践、授業補助、学校行事の指導等を行う。</p>	<p>共同</p>

実習科目	連携校実習2	<p>2年次に、課題研究の基盤となる実習を連携協力校において行う。現職教員は勤務校にて地域連携実習を行う。学部卒業者は、研究関心や自宅からの距離等を勘案して実習校を選択する。</p> <p>学生は、主として、水曜日の午前あるいは木曜日に設定されている「地域連携実習枠」を利用して、毎週12時間、年間で360時間の実習を行う。現職教員は学校での勤務を通して、研究課題の探求と職能成長課題の探求を試みる。学部卒業者は学級の児童生徒理解、教材研究、授業実践、授業補助、学校行事の指導等を行う。</p>	共同
実習科目	連携校実習3	<p>2年次に、教育実践開発コースの学生を対象として、授業力の向上をめざした集中型の地域連携実習（2単位）を設定する。連携校実習1・2の指導体制に加え、愛媛県内において授業のエキスパート級の教員数名を実地指導講師として、連携協力校に派遣する。教員養成課程における授業力向上の総仕上げの実習として位置づく。</p> <p>事前指導は、大学において地域連携実習3の目的、すすめ方等について事前の指導を行い、実習計画をたてる。第1週には、主として児童生徒理解、教材研究、授業構成の工夫、授業実践、授業支援、省察協議等を行う。また、保護者が関わる行事等への参加を通して、保護者対応の学習を行う。第2週には、授業のエキスパート級教員を外務講師として招聘した授業研究を複数回行う。事後指導は、大学において、連携校実習3における学習内容について相互に検討し、報告書を作成する。</p>	共同
実習科目	特別支援教育連携校実習1	<p>連携協力校において、課題研究の基盤となる実習（120時間）を行う。学部卒業者は授業観察による学級の児童生徒理解、教材研究、授業実践、授業補助、学校行事の指導等を行う。現職教員は児童生徒理解、教材研究、授業実践、学校行事の指導等に加え、特別支援教育コーディネーターの役割の理解、研究課題及び職能成長課題の探究を試みる。</p> <p>大学教員（研究者教員・実務家教員）と実習校の実習指導担当者のチーム体制で指導し、大学教員（研究者教員・実務家教員）は実習校への巡回訪問指導を行う。</p> <p>（ティーム・ティーチング方式／クラス分け）</p> <p>（59 立入哉） 聴覚障害補償工学、聴覚障害心理学の研究成果と特別支援学校（聴覚障害）の実務経験を基に、聴覚障害教育に関して、論理的・実務的視点から実習の指導を行う。</p> <p>（6 吉松靖文） 知的障害・発達障害心理学の研究成果に基づき、知的障害・発達障害に関して、理論的視点から実習の指導を行う。</p> <p>（31 檜木暢子） 特別支援学校における豊富な実務経験に基づき、特別支援教育に関して、実務的視点から実習の指導を行う。</p> <p>（32 加藤哲則） 特別支援教育学の研究成果と特別支援学校（聴覚障害・肢体不自由）と特別支援教育コーディネーターの実務経験に基づき、特別支援教育に関して、理論的・実務的視点から実習の指導を行う。</p> <p>（7 荻田知則） 障害児心理学・障害支援工学の研究成果に基づき、特別支援教育に関して、理論的視点から実習の指導を行う。</p> <p>（76 中野広輔） 小児精神医学、小児科学、障害児医学の研究成果に基づき、特別支援教育に関して、理論的視点から実習の指導を行う。</p>	共同

実習科目	特別支援教育コース	特別支援教育連携校実習2	<p>連携協力校において、課題研究のテーマに沿った実習（120時間）を行う。学部卒業者は学級の児童生徒理解、教材研究、授業実践、授業補助、学校行事の指導等、実践的な指導を行う。現職教員は勤務校での勤務を通して、特別支援教育コーディネーターの役割の実践等、研究課題及び職能成長課題の探求を試みる。</p> <p>大学教員（研究者教員・実務家教員）と実習校の実習指導担当者のチーム体制で指導し、大学教員（研究者教員と事務家教員のペア）は、課題研究での省察を行うとともに、実習校への巡回訪問指導を行う。</p> <p>（ティーム・ティーチング方式／クラス分け）</p> <p>（59 立入哉） 聴覚障害補償工学、聴覚障害心理学の研究成果と特別支援学校（聴覚障害）の実務経験を基に、聴覚障害教育に関して、論理的・実務的視点から実習の指導を行う。</p> <p>（6 吉松靖文） 知的障害・発達障害心理学の研究成果に基づき、知的障害・発達障害に関して、理論的視点から実習の指導を行う。</p> <p>（31 樫木暢子） 特別支援学校における豊富な実務経験に基づき、特別支援教育に関して、実務的視点から実習の指導を行う。</p> <p>（32 加藤哲則） 特別支援教育学の研究成果と特別支援学校（聴覚障害・肢体不自由）と特別支援教育コーディネータの実務経験に基づき、特別支援教育に関して、理論的・実務的視点から実習の指導を行う。</p> <p>（7 荻田知則） 障害児心理学・障害支援工学の研究成果に基づき、特別支援教育に関して、理論的視点から実習の指導を行う。</p> <p>（76 中野広輔） 小児精神医学、小児科学、障害児医学の研究成果に基づき、特別支援教育に関して、理論的視点から実習の指導を行う。</p>	共同
実習科目	特別支援教育コース	特別支援教育連携校実習3	<p>連携協力校において、課題研究に関する実践の検証のための実習（60時間）を行う。学部卒業者は学級の児童生徒理解、教材研究、授業実践、授業補助、学校行事等を、実践的な指導を行う。現職教員は勤務校での勤務を通して、特別支援教育コーディネーターの役割の実践等、研究課題及び職能成長課題の検証を試みる。</p> <p>大学教員（研究者教員・実務家教員）と実習校の実習指導担当者のチーム体制で指導し、大学教員（研究者教員と事務家教員のペア）は、課題研究での省察を行うとともに、実習校への巡回訪問指導を行う。</p> <p>（ティーム・ティーチング方式／クラス分け）</p> <p>（59 立入哉） 聴覚障害補償工学、聴覚障害心理学の研究成果と特別支援学校（聴覚障害）の実務経験を基に、聴覚障害教育に関して、論理的・実務的視点から実習の指導を行う。</p> <p>（6 吉松靖文） 知的障害・発達障害心理学の研究成果に基づき、知的障害・発達障害に関して、理論的視点から実習の指導を行う。</p> <p>（31 樫木暢子） 特別支援学校における豊富な実務経験に基づき、特別支援教育に関して、実務的視点から実習の指導を行う。</p> <p>（32 加藤哲則） 特別支援教育学の研究成果と特別支援学校（聴覚障害・肢体不自由）と特別支援教育コーディネータの実務経験に基づき、特別支援教育に関して、理論的・実務的視点から実習の指導を行う。</p> <p>（7 荻田知則） 障害児心理学・障害支援工学の研究成果に基づき、特別支援教育に関して、理論的視点から実習の指導を行う。</p> <p>（76 中野広輔） 小児精神医学、小児科学、障害児医学の研究成果に基づき、特別支援教育に関して、理論的視点から実習の指導を行う。</p>	共同

愛媛大学 設置申請に関わる組織の移行表

平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
愛媛大学				愛媛大学				
法文学部		3年次		法文学部		3年次		
人文社会学科				人文社会学科				
(昼間主コース)	275	10	1,520	(昼間主コース)	275	10	1,520	
(夜間主コース)	90	20		(夜間主コース)	90	20		
教育学部				教育学部				
学校教育教員養成課程	140	—	640	学校教育教員養成課程	160	—	640	定員変更(20)
特別支援教育教員養成課程	20	—			0	—		令和2年4月学生募集停止
社会共創学部				社会共創学部				
産業マネジメント学科	70	—		産業マネジメント学科	70	—		
産業イノベーション学科	25	—	720	産業イノベーション学科	25	—	720	
環境デザイン学科	35	—		環境デザイン学科	35	—		
地域資源マネジメント学科	50	—		地域資源マネジメント学科	50	—		
理学部				理学部				
理学科	225	—	900	理学科	225	—	900	
医学部		2年次		医学部		2年次		
医学科	110	5	942	医学科	95	5	930	定員変更(Δ15)
		3年次				3年次		※医学部医学科の定員15名の増加については、平成31年度までの措置。
看護学科	60	10		看護学科	60	10		
工学部		3年次		工学部		3年次		
工学科	500	10	2,020	工学科	500	10	2,020	
農学部		3年次		農学部		3年次		
食料生産学科	70	5		食料生産学科	70	5		
生命機能学科	45	2	700	生命機能学科	45	2	700	
生物環境学科	55	3		生物環境学科	55	3		
計	1,770	5	7,442	計	1,755	5	7,430	
		3年次				3年次		
		60				60		
愛媛大学大学院				愛媛大学大学院				
法文学研究科				法文学研究科				
総合法政策専攻(M)	15	—	30		0	—	0	令和2年4月学生募集停止
人文科学専攻(M)	10	—	20		0	—	0	令和2年4月学生募集停止
人文社会科学研究科				人文社会科学研究科				研究科の設置(事前伺い)
法学専攻(M)	12	—	24	法学専攻(M)	12	—	24	
産業システム創成専攻(M)	8	—	16	産業システム創成専攻(M)	8	—	16	
教育学研究科				教育学研究科				
特別支援教育専攻(M)								
特別支援学校教育専修	5	—	10		0	—	0	令和2年4月学生募集停止
特別支援教育コーディネーター専修	6	—	6		0	—	0	令和2年4月学生募集停止
教科教育専攻(M)	20	—	40		0	—	0	令和2年4月学生募集停止
学校臨床心理専攻(M)	9	—	18		0	—	0	令和2年4月学生募集停止
教育実践高度化専攻(P)	15	—	30		0	—	0	令和2年4月学生募集停止
				教育実践高度化専攻(P)	40	—	80	研究科の専攻の設置(事前伺い)
				心理発達臨床専攻(M)	10	—	20	研究科の専攻の設置(事前伺い)
医学系研究科				医学系研究科				
医学専攻(D)	30	—	120	医学専攻(D)	30	—	120	
				看護学専攻(D)	2	—	6	研究科の専攻に係る課程の変更(意見伺い)
看護学専攻(M)	16	—	32	看護学専攻(M)	12	—	24	定員変更(Δ4)
理工学研究科				理工学研究科				
生産環境工学専攻(M)	62	—	124	生産環境工学専攻(M)	62	—	124	
物質生命工学専攻(M)	61	—	122	物質生命工学専攻(M)	61	—	122	
電子情報工学専攻(M)	59	—	118	電子情報工学専攻(M)	59	—	118	
数理物質科学専攻(M)	40	—	80	数理物質科学専攻(M)	40	—	80	
環境機能科学専攻(M)	28	—	56	環境機能科学専攻(M)	28	—	56	
生産環境工学専攻(D)	6	—	18	生産環境工学専攻(D)	6	—	18	
物質生命工学専攻(D)	5	—	15	物質生命工学専攻(D)	5	—	15	
電子情報工学専攻(D)	4	—	12	電子情報工学専攻(D)	4	—	12	
数理物質科学専攻(D)	4	—	12	数理物質科学専攻(D)	4	—	12	
環境機能科学専攻(D)	4	—	12	環境機能科学専攻(D)	4	—	12	
農学研究科				農学研究科				
食料生産学専攻(M)	26	—	52	食料生産学専攻(M)	26	—	52	
生命機能学専攻(M)	23	—	46	生命機能学専攻(M)	23	—	46	
生物環境学専攻(M)	23	—	46	生物環境学専攻(M)	23	—	46	
連合農学研究科				連合農学研究科				
生物資源生産学専攻(D)	9	—	27	生物資源生産学専攻(D)	9	—	27	
生物資源利用学専攻(D)	4	—	12	生物資源利用学専攻(D)	4	—	12	
生物環境保全学専攻(D)	4	—	12	生物環境保全学専攻(D)	4	—	12	
計	488	—	1,070	計	476	—	1,054	